藤原清輔編『和歌一字抄』原撰本系統の校本作製の試み

中村康夫

要　旨　藤原清輔編『和歌一字抄』は、井上宗雄氏の研究によって、原撰本・中間本・流布本の三系統に分類されている。本稿は、その中の原撰本に分類されている四本を対象とし、谷山茂氏旧蔵本（京都女子大学図書館谷山文庫現蔵）を底本として、内閣文庫本全文をその左に配し、三康図書館本・宮内庁書陵部本の異同を下欄に配して、校本を作製した。前に解説を付ける。

藤原清輔の編んだ『和歌一字抄』は、類題和歌集であり、歌題中の一字（または二字）によって和歌を分類・掲出したものである。その一字または二字は、動詞である場合が多いが、名詞・形容詞としても、方角、距離感、天気、季節感、時間、風土など、その題において歌を詠む場合に中心的感性をなす概念語が並んでいるように思われる。題詠による作歌の手引書という性格（『新編国歌大観第五巻』解題、『和歌大辞典』福崎春雄氏担当項目）からしても、基本的にはそうあるべき一字といえよう。

清輔の『和歌一字抄』の諸本研究は、井上宗雄氏の研究（「原撰本和歌一字抄について」立教大学日本文学第四十四号など）が総合的であり、原撰本系統の本文は、小内一明氏によって内閣文庫本が（「翻刻紅葉山御文庫本和歌一字抄」大東文化大学「日本文学研究」第四号）、小内和子氏によって宮内庁書陵部本が（「書陵部本『和歌一字抄』（一五五・一〇八）—翻刻と解題—」井上宗雄編『中世和歌　資料と論考』所収）、また、中間本の本文は小内和子氏によって井上宗雄氏蔵本が（大東文化大学「日本文学研究」第八号）翻刻紹介された。このように、井上氏の研究に導かれて本文が翻刻紹介された成果も着実に重ねられている。また、久曾神昇氏は、『日本歌学大系別巻七』において、流布本系三本の写本から橘長頼本を軸に本文を紹介され、『新編国歌大観第五巻』の井上氏・西村加代子氏の書陵部本（一五〇・六五三）の翻刻解題とともに、流布本系の本文研究に重要な資料を提供している。さらに、妹尾好信氏は、稲賀敬二氏蔵本を紹介され（「増補本系『和歌一字抄』諸本考・序説—丹鶴叢書本とは別系の一伝本について—」「古代中世国文学」第五号）、『丹鶴叢書本　和歌一字抄研究基礎資料稿』をまとめられた。

『和歌一字抄』の諸伝本は、丹鶴叢書本を除いてすべて写本であり、現在までのところ、筆者が調査できたり、あるいは情報として知り得ているものを列挙すれば、以下の如くである。なお、諸本を分類・整理するに当たっての名称（原撰本・中間本・流布本）は、井上氏の研究による。（いずれも順不同。未調査で報告もされていないものは流

布本系の中に掲げた）

◎原撰本系統　谷山茂氏旧蔵本（京都女子大学図書館谷山文庫現蔵）

三康図書館本上巻

宮内庁書陵部蔵本（一五五・一〇八）

内閣文庫本

大阪青山短期大学蔵本（伝後光厳院筆。『新編国歌大観第五巻』解題に出）

◎中間本

井上宗雄氏蔵本

三康図書館本下巻

◎流布本系

宮内庁書陵部蔵（一五〇・六五三）『一字抄』（新編国歌大観）

神宮文庫本

川越図書館本

樋口芳麻呂氏蔵本

宮内庁書陵部蔵（鷹・五六）『和歌一字抄』

大阪府立図書館本

筑波大学蔵本

藤平春男氏蔵本

松平文庫本
稲賀敬二氏蔵本
丹鶴叢書本
松野陽一氏蔵本
京都大学蔵本
彰考館本
久曾神昇氏蔵橘長頼本（『歌学大系別巻七』）
久曾神昇氏蔵日野資時本（『歌学大系別巻七』）
久曾神昇氏蔵姉小路基綱本（『歌学大系別巻七』）
竹柏園本（佐々木信綱氏旧蔵本・天理図書館蔵。『歌学大系別巻七』解題に出）

本稿では、そのうち、原撰本系統の諸本である次の諸本を比較対校し、原撰本系統の諸本の本文が大別一覧できる校本を作製しようとするものである。〈　〉内は本稿における略称。

A　谷山茂氏旧蔵本（京都女子大学図書館谷山文庫現蔵）　〈谷山本〉
B　三康図書館蔵本　〈三康本〉
C　宮内庁書陵部蔵本（一五五・一〇八）　〈書陵部本〉
D　国立公文書館内閣文庫蔵本　〈内閣文庫本〉

なお、大阪青山短期大学が所蔵する一本も原撰本系統のものらしいが、現在までに調査できていないので、この一本については今回は触れないことにする。

この四本の書誌はいずれも井上氏によって報告されている（「原撰本『和歌一字抄』について）。特に新しく付け加えるべきこともないので、ほとんど引用に近くなるが、簡単に記述する。

谷山本は、藍表紙の中央に題簽、「和歌一字抄」。江戸初期写の一冊本。二六、二×一九、五㎝。楮紙袋綴。本文墨付三八丁。一面一三行。歌一首一行書き。最終丁右下に「田来翁蔵書」と墨書されており、「谷山蔵書」の印記がある。「田来翁」なる人物は、江戸末から明治にかけて生存した儒学者であり、また和学者である。尾張侯に仕えた儒者で名古屋の人。『名古屋市史』人物編2に詳しい。なお、この人物については、国文学研究資料館佐々木孝浩氏から教示を受けた。

三康本は、茶色表紙。左うちつけに「和謌一字抄」。江戸初期写。二七、二×二〇、五㎝。用紙は厚手のものを使用（井上氏は楮紙とする）。袋綴。一面一三行。歌一首一行書き。巻初（扉）裏右に、「此抄者清輔朝臣所撰也　近衛院御宇　仁平年中抄歟　猶可勘也」とあり、次丁から本文に入る。本文墨付上巻三八丁、下巻三九丁。標目目次（一丁表右上）に「大橋図書館印」の朱の印記がある。なお扉表右下には「安田家寄付特別図書」の朱の印記もある。

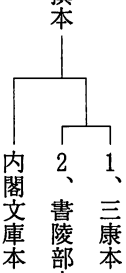
書陵部本は、虫損の多い一冊本で、江戸初期写。二四、三×一七、〇㎝、鳥の子紙列帖装。本文墨付三八丁。一面一三行。歌一首一行書き。

内閣文庫本は、室町ごく末頃写の一冊本。二五、九×二〇、五㎝。楮紙袋綴。表紙左に題簽、「和歌一字抄　完」。本文（標目目次を含む。以下同じ）墨付五九丁。歌一首一行、一面九行書き。

さて、本文の内容を見ると、AとBは極めて近い関係にあり、CはA・Bに対して異文が多いが歌の出入りはなく、歌順が二箇所で入れ替わっている。CはミセケチでA・Bに近く、訂正された結果はDに近い傾向がある。

さて、ＡＢＣＤ四本の関係を見てみることにする。

井上氏は先に掲げた論文の中で、原撰本を次のように整理され、内閣文庫本を増補本とされた。



歌数は三康本・谷山本・書陵部本が四百七十四首、内閣文庫本が四百五十一首である。

歌数の少ない内閣文庫本が増補本であるというのは一見不可解であるが、どういう理由によるか。

◎一字題と歌の出入りの問題

目次のところを一覧すると、標字において、［A］谷山本のほうが内閣文庫本より多いのは四箇所、逆に、［B］内閣文庫本のほうが谷山本より多いのは六箇所である。

［A］の場合

〔谷・内〕〔遙〈遐年〉・遙〕〔舊〈懐旧　古〉・舊〈懐舊〉〕

〔凉〈冷　納凉〉・凉〈納凉〉〕〔處〈所〃〉・處〃〕

［B］の場合

〔谷・内〕〔邊・邊〈頭〉〕〔早・早〈速〉〕〔埋・掩　埋〕〔滋・滋〈繁〉〕

〔芳〈香〉・芳〈香　馥〉〕〔白・白〈薄〉〕

まず［A］について検討すると、「遐年」「古」「冷」は、いずれも内閣文庫本にもその字を歌題にもっている歌がある。結局、単なる掲出漏れである。「所〃」は、内閣文庫本では本文がすべて「處〃」になっており、それが歌の

出入りに繋がっているものではなく、単に掲出の必要がないためである。

次に［B］について検討する。「速」「繁」「馥」の字を歌題にもっている歌は谷山本にも内閣文庫本にもない。その意味では掲出の必要のない字である。これは同義文字（意味上の通用）との考えがあって示されたものではないか。残りの「頭」「掩」「薄」は、その字を歌題にもっている歌が谷山本にはなく、内閣文庫本にある。

和歌一字抄の作歌手引書としての性格からして、一字題として掲げられる標目数が減らされていく方向というのは通常考えにくい。このことから考えると、内閣文庫本の形態は谷山本の形態より後のものであり、増補された形態のものと考えることができる。

◎内題の問題

内題は以下のとおりである。

「和謌一字抄　哥四百七十七首」（谷山本）

「和謌一字抄上　哥四百七十七首」（三康本）

「和歌一字抄上　哥四百七十七首」（書陵部本）

「和歌一字抄」（内閣文庫本）

内題を一瞥して気にかかる問題は「上」の字である。これは、上下二冊に拡張された形態を持っているうちの上冊であることを表している。相対的に「下」冊がなければ「上」の字は書かれるはずがないであろう。そうすると、三康本と書陵部本は上下二冊のものであり、三康本は、いちおう、上冊に谷山本とほぼ同じ本文があり、上下二冊の形態を持っていることは、『和歌一字抄』としては、下冊を拡充する方向へも向かったことを、事実として証明しているように思われる。ただし、井上氏が指摘しておられる歌数の照合がうまくいかないという問題があるので、三康本

の場合、今ある上下冊の組がそのまま書写されたり編纂されたりしたときのものかどうか、別途検討する必要があろう。

かくして、今検討している原撰本系統四本の本文・形態からして、谷山本の形態は、本文的には内閣文庫本の方向へ拡張整備され、形態的には、三康本・書陵部本（下冊散逸か）のように下冊拡充の方向にも向かったことになる。これが、流布本系統諸本にどう影響しているかは別稿とする。

◎書陵部本について

書陵部本には「水花影瀉〈勅撰一字抄花影瀉水〉」と書かれている箇所がある。この「勅撰一字抄」は江戸期の類題和歌集であり、書陵部本の書写年がそれより下ることを示している。

次に、谷山本と歌順が入れ替わっている二箇所について考察する。

［A］

宮　0425　良暹

谷　0424　義孝〈前伊勢守〉

内　0404　良暹

内　0404　已上五首俊網會

宮　0425　は、そはら色つく枝そあやにくに一葉なれともまつは散ける

谷　0424　は、そ原いろつく枝そあやにくに一葉なれともまつはちりける

内　0404　柞原色つく枝そあやにくに一葉なれともまつはちりける

宮　0424　義孝〈前伊勢―〉

谷　0425　良暹

内　0403　義孝〈伊勢前司〉

宮　0424　あたちのやまゆみも色やつきぬらんなみきの里は梢よりちる

谷　0425　あたち野やまゆみも色やつきぬらんなみきの里は梢よりちる

内　0403　あたち野やまゆみも色やつきぬらんなみきのみやは梢よりちる

［B］

宮　0432　行路郭公　仁和寺左府

谷　0431　行路郭公　仁和寺左府

内　0411　行路郭公　花園左大臣

宮　0432　たとりゆくしかの山路をうれしくもわれにかたらふほとゝきす哉

谷　0431　たとりゆくしかの山路をうれしくもわれにかたらふほとゝきすかな

内　0411　たとりゆくしかの山ちをうれしくも我にかたらふ時鳥かな

宮　0431　行路蛍火　殿下

谷　0432　行路蛍火　殿下

内　0410　行路蛍火　関白

宮　0431　かゝり火にまかふほたるをしるへにてこのあけくれ□舟出すゝしも

谷　0432　かゝり火にまかふほたるをしるへにてこのあけくれに舟てすらしも

内　0410　かゝり火にまかふほたるをしるへにて

以上二箇所に共通していることは、谷山本と比べると、この箇所では内閣文庫本も歌順が逆転しているということである。しかも［A］では、和歌作者まで書陵部本と内閣文庫本が一致している。ここはミセケチなどで修正してそうなっているのではない。内閣文庫本にある［A］の「已上五首俊綱會」の記述は、実際は歌順が逆転しているので、後ろの歌もその時の歌であることになるので、見るときに注意を要する。こういう出典情報は、原撰本の中では内閣文庫本だけが多く記入されているが、内閣文庫本の編纂形態を考えるとき、いろいろ考察してみなければならないであろう。

書陵部本の本文のうち校異を加えないもとの文は三康本にやや近く、校合の語句は内閣文庫本にやや近いものもあると、井上氏は指摘しているが、三康本は谷山本と極めて近い本文であり、その「三康本」をそのまま「谷山本」に置き換えて、一向差し支えない。

書陵部本の校異について、おおまかにはそういう傾向のもとに捉えて間違いないと筆者も判断しているが、校異の箇所ではないところでも、歌順や和歌作者という違いとしては大きいところで、書陵部本が内閣文庫本と一致していることは、書陵部本の性格を考える上で注意されるところである。

また、谷山本・三康本・書陵部本にあって内閣文庫本にない歌にも、次の例のように書陵部本には校異の書き込みがあるところがある。（本文は書陵部本）

0049　池水にまかへるちよのかけを見てすゑの松山思ひこそやれ

（「見て」の「て」は「し」をミセケチにして「て」と傍書）

0325　むさしの、あしのおき、とわけゆけは葉□ゑより□そ空はみえけり

（「、と」の傍に「ふをイ」）

これらの書き込みは内閣文庫本系の本によってなされたものでないことは確実で、このことから考えると、書陵部本の書き込みは内閣文庫本の系統の本文から切り出されたものだけでなく、何本か複数の本を想定しておいたほうがよさそうである。

◎内閣文庫本にのみ見える歌十七首

内　0016　雨中紅梅　為義朝臣

内　0016　春雨のいとかきたれてくれなゐの玉をぬくめる梅の花哉

内　0056　岸頭白菊　定誓律師

内　0056　わかやとの岸のひたいの白菊はまゆのあひたの玉とこそみれ

内　0071　秋花先秋　関白

内　0071　いつるひをいかにかそへてなつ草のさきましるらん槿の花

内　0083　叢近聞虫聲　源縁

内　0083　草村のとをからませは虫のねをね覚の床にいかてきかまし

内　0092　遠尋山花　関白

内　0092　帰へきほとをおもはぬ道ならはのとかにみねの花は見てまし

内　0180　水邊納涼　家經

内　0180　風ふけは河邊すゝしくよる波の立帰へき心ちこそせね

内　0183　水邊寒草　公長卿

内　0183　高根には雪ふりぬらしましは川ほきのかけ草たるひすかれり

内 0197 深山桜遅 經信
内 0197 いまはさけみ山かくれのをそさくら思ひわすれて春をすくすな
内 0290 霜隠家 永成法師
内 0290 しとろなるのきも□たちにをく霜はあれたるやとのおもかくれかな
内 0291 花掩澗水 藤原隆方
内 0291 ちる花のいはまの波をこめつれは山下水のをともせぬ哉
内 0292 同 頼家
内 0292 山さとのみくさと花はなりにけりのこるいかて人にいらせし
内 0321 秋花帯露開 元輔
内 0321 ほころひて花さきにけり藤はかま匂ひにむすへ露にまかせて
内 0335 春花浮水 國基
内 0335 みとりなる河邊の柳かけさせは水にも春の色そみえける
内 0359 草随地深 仲正
内 0359 草もみなたかきみしかきよ也けりあさち荻原ところわきして
内 0378 遠山霞薄 國基
内 0378 春ふかく又かすみせは故郷のとをちの山をほのみましやは
内 0430 梅花薫砌 顕輔
内 0430 あさからぬ匂ひのみかは梅花しつえは宿のかさし也けり

内　0433　　隣家盧橘　　源師光

内　0433　我宿にたつぬはかりそたち花のにほひはかきもへたてさりけり

右の十七首のうち、56・291・292・378歌は一字題の補入により入れられた歌である。他の十三首は歌題の配列を考慮してしかるべき位置に挿入されたもので、内閣文庫本でより一層編集が整っている。このことは、すでに井上氏も指摘しているところである。

◎内閣文庫本では切り出された歌

全部で四十一首にのぼる歌を再掲することは省略するが、この四十一首のうち、俊頼の歌と新院御製が各八首、大相国実行の歌が四首ある。あまり短絡的なことは言うべきでないが、少なくとも、内閣文庫本の祖本が成ったころは、清輔にとっての崇徳院・俊頼との心理的距離を考えるとき、それ以前とは何らかの変化をきたしていた可能性はないか。もともと入れられていた歌数が多かったからそのような結果になったと考えるより、もっと積極的な理由を考えるべきかもしれない。

凡例

〔底本と対校本文〕

一、藤原清輔編『和歌一字抄』の原撰本系統の本校本は、谷山茂氏旧蔵本（京都女子大学図書館谷山文庫現蔵。以下、谷山本という）を底本とし、内閣文庫本（番号―和三一八七二、函號―二〇二・六一）を別流対校本文として、それぞれ全文を掲出した。

また、宮内庁書陵部蔵本・三康図書館本については、谷山本との異同のみを、それぞれ【宮】【三】として、下段

に示した。

二、歌の配列は谷山本を基準とし、内閣文庫本の歌順は、谷山本のそれと異なる場合は、谷山本に合わせて配し直した。また、内閣文庫本にのみ存在する歌は、内閣文庫本内部の配列順を優先して配した。

三、歌番号は、各本の中で前から順にうったもので、それぞれ四桁のアラビア数字で示した。必ず四桁表示とし、四桁に満たない数は前に「0」を置いた。

四、谷山本の本文は頭部に「谷」の字を置き、内閣文庫本の本文は同じく「内」の字を置いて示した。

〔本文の掲出の方針〕

一、掲出本文はできるだけ原本の用字を忠実に再現することを目指した。しかしながら、あまりに厳密に字形を見定めると、崩し方や筆癖などもあって、大漢和辞典にも見えない文字も相当数出てくることになる。そこまでいくとても印刷物として作成できなくなるので、一定程度の集約は行った。

二、ミセケチは結果を採択し、消された文字は示さなかった。特に書陵部本は消された文字が谷山本・三康本と一致することが多く、訂正された結果は内閣文庫本と一致する傾向がある。その意味では、消された文字も重要な情報であるが、書陵部本は実に読みにくい本であり、小内和子氏に大変な労作の翻刻がある。詳しい調査をされる方は、是非、併せてご参照いただきたい。

三、割注や細字注は〈　〉に入れて示した。

四、「□」で示したのは、原本に空白が存在する場合であり、書陵部本の本文については解読不可の文字の場合も「□」で示した。

五、一字題のうち、原本に書かれていないものは、しかるべき位置に補い、［　］で括って示した。

〔異同の示し方〕

一、『和歌一字抄』は、その性格から、記載されている内容を、一字題（二字の熟語題の場合もある）・歌題・和歌作者・集付・和歌・左注に大別される。そのうち、左注の内容は出典に係わるものなので、すべて集付と同様に扱い、原本の位置から移して示した。この場合は、すべて下段に注記した。

二、谷山本に対する書陵部本・三康本の異同は、漢字とカナ、字体の相違（新旧・正体略体など）は取り上げず、語義の異なる場合に取り上げることを原則とした。ただし、時鳥と郭公の場合のように、用字の相違については掲げた場合もある。

三、谷山本と内閣文庫本の傍書は、それぞれの下段に【傍】として示した。

①他の箇所と紛れることなく示すことができる場合は、傍書のある文字を示し、「—」（ハイフォン）をおいて、次に傍書のみを示した。

〔例〕金—本マ、【傍】　　よ—如本【傍】　　鳥—雨カ【傍】

②他の箇所と紛らわしかったり、視認するうえで便利と判断した場合は、傍書のある文字の前後の文字を併せて示し、傍書のある文字には「＊」を上に付けた。

〔例〕＊すけり—に【傍】（これは、傍書によって「にけり」の本文になる）

む＊てふ—す【傍】（これは、傍書によって「むすふ」の本文になる）

四、書陵部本・三康本の傍書については、以下の要領で（　）で括って示した。

①傍書のある文字を再掲して示す場合。

〔例〕まし—さりし（さり—まカ【傍】）【宮】

をきくと—おきゝと（ゝと—ふをイ【傍】）【宮】

②再掲せずに直後に示す場合。

〔例〕ははれ—は（かイ【傍】）ゝれ【宮】

としは数へも—年はかすえも（としはか末のイ【傍】）【宮】

五、歌題、作者の異同については、異同の部分を示して異文を掲げた場合もあるが、多くの場合は、特に歌題・作者の別を断らずに、その全体を掲げた。

〔その他〕

一、必要な注記は、頭部に「※」を付して下段に示した。

本研究は、昭和六十年度文部省科学研究費奨励研究の交付によって始めた研究をベースにしている。
本研究を進めるにあたって、本校本に全文の翻刻を御許可くださった谷山茂先生、京都女子大学、国立公文書館、さらに貴重な御所蔵の本を閲覧、調査等のご許可をくださった三康図書館、宮内庁書陵部に心から御礼申し上げる。

内谷	和謂一字抄 和歌一字抄	哥四百七十七首	和謂一字抄—和歌一字抄上 【宮】和謂一字抄上【三】
内谷	東	北	上	中	
内谷	下	邊〈頭〉	間	外	
内谷	前〈先〉	先	半	後	
内谷	近	遠	遠近	遙〈遐年〉	
内谷	長	短	久	舊〈懷旧 古〉 舊〈懷舊〉	
内谷	年 〃	時 〃	曉	朝	
内谷	暮〈晚夕〉 暮〈晚夕〉	夜 夜〈暗〉	暗	明	
内谷	曇〈晴〉 曇〈晴〉	未晴 未晴	幽	閑〈静〉 閑〈静〉	〈静〉ーナシ【宮】
内谷	不閑 不閑	涼〈冷納涼〉 涼〈納涼〉	寒	温 照	
内谷	照	漏	早〈速〉	遲	
内谷	遲速 遲速	期 期	初〈始〉 初〈始〉	盛 盛	

内谷	内谷	内谷	内谷	内谷	内谷	内谷	内谷	内谷	内谷	内谷	内谷
底	紅	薫	靡	落	映	滿	隔	夾	延	漸	終
流	白〈薄〉	芳〈香〉〈馥〉	隨	未落〈鮮〉	瀉	滋〈繁〉	籠	廻〈繞〉〈繞〉	増	稀〈希〉〈希〉	盡
不流	浅	匂	飛	鮮	浮	重	蔵〈隠〉〈隠〉	連	添	残	逐
洲	深	緑	乱	散	開	帯	掩埋	礙	副	不残	送

夷―夾【宮】

内谷	岸	林	叢	村		
内谷	路〈徑〉	處〈所〉	庭	砌		
内谷	路〈徑〉	〃	庭	砌		
内谷	隣	山家	野亭	田家		
内谷	隣	山家	野亭	田家		
内谷	東					
内谷	東					
内谷	0000001	春従東来	〈源右中弁〉師賢朝臣		源右中弁―源左大辨【宮】	
内谷	0000001	春来従東	師賢朝臣			
内谷	0000011	後拾遺			※歌題の下	
内谷	0000011	あつまちは名こその関もあるものをいかてか春の越てきつらん				
内谷	0000001	あつまちはなこそのせきもある物をいかてか春のこえてきつらん				
内谷		北	北			
内谷	0000002	風従北来	行宗卿		〈源大蔵卿〉行宗卿【宮】	
内谷	0000022		行宗卿		【三】	
内谷	0000022	かそふれは神無月にと成にけり越路のかせそけしきことなる			にと―にも【宮】	
内谷	0000002	かそふれは神無月にもなりにけりこしちの風そけしきことなる				
内谷		上	上			
内谷	0000003	水上落花	能因法師			
内谷	0000003	水上落花	能因			
内谷	0000003	桜ちる水のおもにはせきとむる花のしからみかくへかりけり				
内谷	0000003	桜ちる水のおもにはせきとむる花のしからみかくはかりなり				
内谷	0000004	水上聞時鳥	清成法橋		時鳥―郭公【宮】	〈石清
内谷	0000004	水上郭公	清成法橋		水〉清成法□【宮】	

内　0004　良暹打聞
谷　0004　夏はまつふなちにいてむ時鳥おもひのほかにはつねきにけり
内　0004　夏はまつ船ちにいてんほとゝきす思ひの外にはつねきゝけり

谷　0005　水上落葉　〈藤右中弁〉伊家
内　0005　水上落葉　藤伊家

※歌題の下
時鳥―郭公【宮】

内　0005　金
谷　0005　はゝそちる岩間をかつくかもとりはをのか青はも紅葉しにけり
内　0005　柞ちるいはまをかつくかも鳥はをのかあをはも紅葉しにけり

※歌題の下

谷　0006　水上龝月　〈藤ノ式部大掾〉久時卿
内　0006　水上秋月　文満卿

〈藤原〉久時卿〈式部太輔〉【宮】【三】〈藤式部大輔〉久時卿【三】
※歌題の下

内　0006　拾
谷　0006　みな底に月のしつむを見さりせはわれひとりとや思ひはてまし
内　0006　みなそこに月のしつむを見さりせはわれひとりとや思ひはてまし

谷　0007　水上冬月　〈源〉信宗朝臣〈前越中守〉
内　0007　水上冬月　源信宗朝臣
谷　0007　冬の夜のあしまにやとる月影はむはぬみつにこほりとそみる
内　0007　冬の夜のあしまにやとる月影はむすはぬ水にこほるとそみる

谷　0008　池上花　顕季卿
内　0008　池上花　顕季卿
谷　0008　岸ちかくにほふ桜の花みれはしつえやいけのかさしなるらむ
内　0008　岸ちかくにほふ桜の花みれはしつえや池のかさしなるらん

〈前備中守〉【宮】【三】
むはぬ―むすはぬ【宮】
みつに―水に（「に」の傍に「の也」）【宮】

谷　0009　池上月　良暹
内　0009　池上月　良暹
谷　0009　月かけのかたふくまゝに池水をにしへなかるとおもひけるかな
内　0009　月かけのかたふくまゝに池水のにしへなかると思ひけるかな

良暹―良暹法師【宮】

谷　0010　池上落葉　隆信卿
内　0010　池上落葉　經信卿
谷　0010　玉藻かるふなこはしはし心せよ池のもみちはにしきおるめり
内　0010　玉もかるふなちはしはしこゝろせよ池の紅葉は錦をるなり

谷 0011 海上月 喜言
内 0011 海上夜月 大江嘉言
谷 0011 よふくともいさ漕いてむ月かけのいらんところをとまりとはして
内 0011 夜ふくともいさこきいてん月影のいらんところをとまりとをして

海上夜月【宮】
嘉言【宮】

谷 0012 橋上藤花 顕季
内 0012 橋上藤花 顕季卿
谷 0012 うすくこくのとかにゝほへしつえまてときはの橋にかゝる藤なみ
内 0012 うすくこくしつかにゝほへしつまてときはの橋にかゝる藤浪

谷 0013 橋上初雪 前斎院尾張
内 0013 橋上初雪 前斎院尾張
谷 0013 金
内 0013 しら波のたちわたるかもみゆるかな濱なの橋にふれる白雪
谷 0013 白浪のたちわたるかとみゆる哉はまなのはしにふれるはつ雪
内 0013

※歌題の下
かも―かと【宮】

谷 0014 松上雪 國行
内 0014 松上雪 藤國行
谷 0014 淡雪も松のうへにし降ぬれはひさしくきえぬ物にそありける
内 0014 あは雪も松のうへにしふりぬれはひさしく消ぬ物にそ有ける

谷 [中]
内 中

谷 0015 雪中鶯 〈源〉俊頼〈前木工頭〉
内 0015 雨中鶯 俊頼朝臣
谷 0015 春雨は降しむれとも鶯の聲はしほれぬものにそありける
内 0015 春雨はふりしむとも鶯の聲はしほれぬものにそ有ける

雨中鶯【宮】
しむれ―しつむ【宮】

谷 0016 雨中紅梅 為義朝臣
内 0016 春雨のいとかきたれてくれなゐの玉をぬくめる梅の花哉

谷 0016 雨中花 安法ゝ師
内 0017 雨中花 安金師

安法師【宮】
金師―本マヽ【傍】

谷 0016 そほつとも花の花下にそやとはせむにほふしつくに衣そむへく
内 0017 そほつとも花のしたにしやとはせんにほひし露に衣そむへく

谷 0017 雨中落花 〈藤〉長家卿〈大納言〉
内 0018 雨中落花 長家卿

谷 0017 打聞
内 0018 打聞
谷 0018 春雨に散る花みれはかきくらしみそれし空の心ちこそすれ
内 0017 はる雨にちる花みれはかきくらしみそれし空の心ちこそすれ

谷 0018 雨中藤花 〈源〉頭仲卿〈神祇伯〉
内 0019 雨中藤花 頭仲卿
谷 0019 金
内 0018 ぬるゝさへうれしかりけり春雨に色ます藤のしつくとおもへは
谷 0019 ぬるゝさへうれしかりけり春雨に色ます藤のしつくとおもへは

谷 0019 雨中瞿麦 俊頼
内 0019 いにしへはちりをさへこそいとひけれあめにしほれぬなてしこの花

谷 0020 雨中郭公 隆信卿
内 0020 雨中郭公 經信卿
谷 0020 金
内 0020 時鳥雲路にまとふ聲すなりをやみたにせよさみたれの空
谷 0020 時鳥雲路にまよふ聲すなりをやみたにせよ五月雨の空

谷 0021 雨中早苗 殿下〈関白忠通〉
内 0021 〃〃早苗 関白前太政大臣
谷 0021 さなへとるけふしも雨のふることは世のうるふへきしるし也けり
内 0021 さなへとるけふしも雨のふることは世のうるふへきしるし成けり

谷 0022 雨中女郎 俊頼
内 0022 〃〃女郎 俊頼朝臣
谷 0022 こころからたれにたはれておみなへし雨にうたれて袖しほるらん
内 0022 こゝろから誰にたはれてをみなへし雨うたれて袖しほるらん

花下ーした【宮】

※歌題の下

※歌題の下

郭公ー時鳥【宮】

※歌題の下
まとふーまよふ【宮】

谷 0023 雨中堅花　顕季
内 0023 〃〃野花　顕季卿
谷 0023 あめふれはおもひこそやれ露をたにおもけに見えしまゝむら萩
内 0023 雨ふれはおもひこそやれ露をたに面影に見えしまゝの村萩

谷 0024 雪中子日　俊頼
内 0024 雪中子日　俊頼朝臣
谷 0024 子日してよはひを堅へに雪ふれは二葉の松し花咲にけり
内 0024 子日してよはひを堅へに雪ふれは二葉の松も花さきにけり

谷 0025 雪中若菜　能宣朝臣
内 0025 〃〃若菜　能宣朝臣
谷 0025 春日野のわかなもいまはおふとそと人よりさきゆきのつむらん
内 0025 春日堅のわかなもいまはおふらめと人よりさきに雪そふりつむ

谷 0026 雪中鷹狩　〈源〉道済〈筑前守〉
内 0026 〃〃鷹狩　道済
谷 0026 金ぬれ〳〵も猶かりゆかむ箸鷹のうは毛の雪をうちはらひつゝ
内 0026 ぬれ〳〵も猶かりゆかんはしたかのうはけの雪をうちはらひつゝ

谷 0027 雪中旅人　經信卿
内 0027 〃〃旅人　經信卿
谷 0027 深山路にけさや遣つるたひ人の笠しろたへにゆきはふりつゝ
内 0027 太山ちをけさやいてつる旅人の笠しろたへに雪はふりつゝ

谷 0028 風中虫聲　無
内 0028 風中虫聲　無名
谷 0028 良山集
内 0028 みやき野の露こそ風にこほらめむしの音さへも乱るなるかな
谷 0028 宮城のゝ露こそ風にみたるらし虫のねさへもみたるなるかな
内 0028

谷 0029 竹中鶯　〈入寺〉聖梵法師〈東大寺〉
内 0029 竹中鶯　聖梵禅師
谷 0029 打聞
内 0029

さき―さきに【宮】

※歌題の下

遣つる―出つる【宮】【三】

※歌題の下
こほ―こほる【宮】

※歌題の下

谷 0029 花さかぬ竹にのみすむ鶯はみしかきよたははるとしるらん
内 0029 花さかぬ竹にのみすむ鶯はみしかきよをや春しるらん

谷 0030 船中時鳥
内 0030 俊頼朝臣
谷 0030 船中郭公
内 0030 をひかせにもとるもたゆし時鳥いさたかさこのまつの梢へ
谷 0030 をひかせにもとるもたゆし時鳥いさ高砂の松の木すゑに

谷 0031 舟中月
内 0031 〈大江〉匡〈中納言〉
谷 0031 船中月
内 0031 匡房卿
谷 0031 つねよりも月のひかりのさやけきはあまの川瀬にふねやきぬらん
内 0031 つねよりも月の光のくまなきはあまの河せに舟やきぬらん

谷 0032 山中郭公
内 0032 俊頼
谷 0032 山中郭公
内 0032 俊頼朝臣
谷 0032 ほとゝきすをのかね山の椎柴にかへりうてはやをとつれもせぬ
内 0032 時鳥をのかねやまのしゐしはにかへりうてはやをとつれもせぬ

谷 0033 旅中春暮
内 0033 同
谷 0033 旅中春暮
内 0033 同
谷 0033 わかれ行やよひの空にしたはれてしらぬ野へにもまとふけふかな
内 0033 わかれゆくやよひの空にしたはれてしらぬのへにもまとふ今日哉

谷 0034 旅中聞鴈
内 0034 白河院御製
谷 0034 旅中聞鴈
内 0034 白川院御製
谷 0034 さして行道もわすれて鴈かねのきこゆるかたに心をそやる
内 0034 さしてゆく道もわすれて鴈金のきこゆるかたに心をそやる

谷
内 [下]
下

谷 0035 花下旅宿
内 0035 俊頼
谷 0035 花下旅宿
内 0035 俊頼朝臣
谷 0035 やさしやな苔のたもとにちりそむる花を衣にかさねてそぬる
内 0035 かさしたのこけのたもとにちりそむる花を衣にかさしてそぬる

よた―如本【傍】　よたは―よたに【宮】　はると―はるを【三】

へ―は【宮】

匡―匡房【宮】

川瀬―かは風【宮】

郭公―時鳥【宮】

谷 0036 松下風聲 時方
内 0036 松下風聲 持方
内 0036 哥合
谷 0036 袮のえに秋吹かせのをときけはくもらぬ雨に袖そぬれける
内 0036 松のえに秋ふく風のをときけはくもらぬ雨に袖そぬれける

※歌題の下
袮のえ―松かえ【宮】

谷 0037 林下時雨 行宗卿
内 0037
谷 0037 たちよれと時雨とまらぬはゝそ原もる山ともやいふへかるらん
内 0037

谷 [邊]
内 邊〈頭〉

谷 0038 水邊残雪 〈藤〉經衡〈大和守〉
内 0038 水邊残雪 藤經衡
谷 0038 いかにしてのこれる春の雪ならむこほりもけにし池の汀に
内 0038 いかにしてのこれる春の雪ならん氷とけにし池のみきはに

谷 0039 水邊梅花 〈平〉經章〈東宮亮〉
内 0039 水邊梅花 平經章朝臣
谷 0039 すゑむすふ人のてさへやにほふらん梅の下行みつのなかれは
内 0039 すゑむすふ人の手さへや匂らん梅の下ゆく水のなかれは

谷 0040 水邊桜花 師賢
内 0040 水邊桜花 師賢朝臣
谷 0040 池水のみきはならすはさくら花かけをも波におられましやは
内 0039 池水の汀ならすはさくら花かけをも浪におられましやは

こほりもけにし―氷も□□し【宮】

谷 0041 水邊款冬 殿下
内 0040 〃〃款冬 関白前太政大臣
谷 0041 金
内 0040 かきりありて散るたにおしき款冬をいたくなおりそいての河なみ
内 0040 かきりありてちるたにおしき山吹をいたくなおりそゐての川浪

※歌題の下

谷 0042 水邊蛍 嘉言
内 0041 〃〃蛍 嘉言
谷 0042 水のおもにわたるほたるのかけみれはをのかおもひもかくれさりけり
内 0041 水のおもにわたる蛍のかけ見れはをのか思ひもかくれさりけり

谷 0043 水邊夏草 俊頼
内 0043

谷 0043 ゆふ立にしほるゝ澤のかゝみ草水のかけもや葉にうつるらむ
内

谷 0044 水邊夏月 〈安部〉佐頼
内 0042 〃〃夏月 安部佐頼
谷 0042 打聞
内 0044 かつきするあまたにしらぬわたつ海の底さへ照す夏のよの月
谷 0042 かつきするあまたにしらぬわたつ海の底さへてらす夏の夜の月
内 ※歌題の下

谷 0045 水邊草花 〈輔仁〉三宮 〈親王〉
内 0043 水邊草花 三宮
谷 0045 川舟のさほのしつくにたちそひて岩ねのすゝきいとゝ露けし
内 0043 河舟のさほのしつくのおちそひていはねのすゝきいとゝ露けし

谷 0046 水邊秋花 能宣朝臣
内 0044 〃〃秋花 能宣朝臣
谷 0044 後
内 0046 水の色ははなのにほひをけふそへて千年の烋のためしとそみる
谷 0044 水の色に花のにほひを今日そへてちとせの秋のためしとそみる
内 ※歌題の下

谷 0047 水邊紅葉 經信卿
内 0045 〃〃紅葉 經信卿
谷 0045 金
内 0047 大井河岩波たかし筏しも岸のもみちにあからめなせそ
内 0045 大井川いはなみたかしいかたしよ岸のもみちにあからめなせそ
※歌題の下

谷 0048 水邊蘆葉 顕季
内 0046 〃〃 顕季卿

谷 0048 見わたせはあし葉をしなみ茂りあひて道たる〳〵し堀江漕舟
内 0046 見わたせはあしの葉をしなみしけりあひて道たつ〳〵しほりえこく舟

たる—たつ【宮】【三】

谷 0049 水邊松　為時〈越後守〉
内 0049 池水にまかへるちよのかけを見て末の松山おもひこそやれ

為時—〈藤〉為時【宮】

谷 0050 水邊旅宿　師賢
内 0047 〃〃旅宿　師賢朝臣
谷 0050 磯なるゝ心そたへぬたひねするあしのまろやにかゝるしら波
内 0047 磯なるゝこゝろそたえぬ旅ねするあしのまろ屋にかくる白浪

心そ—出るに【宮】

谷 0051 池邊藤花　經信
内 0048 〃〃藤花　經信卿
谷 0051 金
内 0048 池にひつ松のはひえにむらさきの波おりかゝる藤さきにけり
谷 0051 池にひつ松のはひえに紫の波おりかくる藤さきにけり

池邊—池水【三】
※歌題の下

谷 0052 海邊柳　〈源〉仁和寺左府〈有仁〉
内 0049 海邊柳　花園左大臣
谷 0052 しほみてはあまのつりこと見ゆるかな岸へにたてる青柳のいと
内 0049 しほみてはあまのつりかと見ゆる哉岸へにたてる青柳のいと

つりこ—釣か【宮】

谷 0050 〃〃霞　俊頼朝臣
内 0050 春かすみたなひくうらはみつしほのいそこす浪のをとのみそする

谷 0053 海邊月　顕仲卿
内 0051 海邊月　顕仲卿
谷 0053 かもめゐるふちえの浦のおきつすによふねいさよふ月そさやけき
内 0051 かもめゐるふちえのうらのおきつ浪夜舟いさよふ月のさやけさ

谷 0054 岸邊秋花　〈源〉順〈能登守〉
内 0053 〃〃秋花　源順

谷 0054 色ふかききしのほとりにさける花あさき波にはおられさりけり
内 0053 色ふかき岸のほとりにさける花あたの波にはおられさりけり

谷 0055 顕仲卿
内 0052 岸邊牡丹
谷 0055 同人
内 0052 岸邊牡丹
谷 0055 あまそきやきしへにさけるふかみ草ふかくそ水にかけはしつめる
内 0052 □□□□しるへにさけるふかみ草ふかくも水にかけそしつめる

谷 0056 野邊枯草
内 0054 堅邊枯草
谷 0056 顕仲卿
内 0054 顕仲卿
谷 0056 しのきあへすわけこしのちも冬かれはもすそにかゝる草のはもなし
内 0054 しのきあへす□□こしのちも冬くれはもくつにかゝる草の葉もし

谷 0057 山邊梅芳
内 0055 山邊梅花
谷 0057 〈源〉仲正〈兵庫頭〉
内 0055 源仲正
谷 0057 よのつねのつまきはこらし春山のにほひをたきものにせむ
内 0055 よのつねのつま木はこらし春山の梅のにほひをたき物にせん

谷 0056 岸頭白菊
内 0056 定誓律師
谷 0056 わかやとの岸のひたいの白菊はまゆのあひたの玉とこそみれ
内 0056 間［間］

谷 0058 霧間堅花
内 0057 霧際野花
谷 0058 行家〈讃岐守〉
内 0057 藤行家朝臣
谷 0058 秋のゝ霧のたえまのはなすゝきほのめく色を見つるけふ哉
内 0057 秋の堅のきりのたえまの花すゝきほのめく色をけふみつる哉

谷 0059 雨間花
内 0058 雨間花
谷 0059 〈関白〉京極大殿〈師実〉
内 0058 京極前太政大臣
谷 0059 ふくかせにちるたにおしき桜花また春かせにしほるへくやは
内 0058 ふく風にちるたにおしき桜花また春雨にしほるへしとは

にほひ―梅のにほひ【宮】

行家―〈藤〉行家【宮】

春かせ―春雨【宮】

谷 0060 松間桜 仁和寺左府
内 0059 松間桜 花薗左大臣
谷 0059 春ことに松のみとりにうつもれてかせにしられぬはなさくらかな
内 0059 春ことに松のみとりにうつもれて風にしられぬ花さくら哉

※歌題の下

谷 0061 同 〈藤〉内大臣〈左大将〉
内 0060 同座 内大臣
谷 0060 金
内 0061 この春は長閑ににほへさくら花枝まつかはすまつのしるしに
谷 0060 この春はのとかに匂へさくら花枝さしかはす松のしるしに

※歌題の下

谷 0062 松間紅葉 頭輔卿〈左京大夫〉
内 0061 松間紅葉 頭輔卿
谷 0062 住吉のまつのたえまの紅葉にやつもりのあまは秋を知らん
内 0061 すみよしの松のたえまの紅葉にやつもりのあまは秋を知らん

頭輔卿―〈藤〉頭輔卿【宮】

谷 [外]
内 外

谷 0063 雲外時鳥 〈藤〉行盛〈摂津守〉
内 0062 雲外郭公 行盛朝臣
谷 0063 まつらむとしらすかほにて時鳥雲井なからも過ぬなるかな
内 0062 まつらんとしらぬかほにて時鳥雲ゐなからも過にける哉

谷 0064 野外花 隆源阿闍梨〈号若狭〉
内 0063 野外草 隆源法師
谷 0064 まつすけやそろゐしけれる堅澤にもすみれつむとてひとよいぬへし
内 0063 まろすけやそろひしけれる堅さはにも菫つむとて一夜ねぬへし

隆源阿闍梨―〈延暦寺〉隆源【宮】
そろゐ―そのゐ【宮】 いぬ―かぬ【宮】 堅澤―堅原【三】

谷 0065 野外女郎 頭季
内 0064 野外女郎 頭季卿
谷 0065 をみなへしうしろめたくも見ゆる哉あたのおほのにたつとおもへは
内 0064 をみなへしうしろめたくもみゆる哉あたのおほ堅にたてるとおもへは

谷　前　［前］

谷　0066　月前落花　經信
内　0065　月前落花　經信卿
谷　0066　くまもなき月はかりとや詠ましちりくる花のかけなかりせは
内　0065　くまもなき月はかりとや詠ましちりくる花のかけなかりせは

谷　0067　月前秋花　輔照
内　0066　〃〃秋花　菅輔照
谷　0067　うしろめく月のまへなる女郎花露に心やをきかはすらむ
内　0066　うしろめた月のまへなるをみなへし露にうしろやをきかはすらん

谷　0068　月前落葉　白河院御製
内　0067　〃〃落葉　白河院御製
谷　0068　後もみち葉の雨とふるなるこのまより明石の月の影そもりくる
内　0067　紅葉はの雨とふるなる木のまよりあやしや月のかけそもりくる

※歌題の下

谷　0069　月前残菊　〈大江〉公資〈兵部権大輔〉
内　0068　〃〃白菊　大江公資朝臣
谷　0069　秋のよの月にまきるゝしら菊はうつろはせてそおるへかりける
内　0068　秋の夜の月にまきるゝ白菊はうつろはせてそおるへかりける

谷　0070　月前述懐　〈藤〉實綱〈式部大輔〉
内　0069　〃〃述懐　藤實綱朝臣
内　0069　後いつとてもかはらぬ秋の月みれはたゝいにしへのつまそ恋しき
谷　0070　いつとてもかはらぬ秋の月みれはたゝいにしへの空そ恋しき
内　0069

※歌題の下

谷　［先］
内　［先］

谷　0071　柳先花詠　〈藤〉公實〈大納言〉
内　0070　柳先花緑　三条大納言公實

詠―緑【宮】

ける―けり（る歟【傍】）【宮】

谷 0071 あさみとりまつとて人のくるものは花にさきたつ青柳の糸
内 0070 あさみとりまつとて人のくる物は花にさきたつ青柳のいと

谷 0071 秋花先秋 関白
内 0071 いつるひをいかにかそへてなつ草のさきましるらん槿の花

谷 [半]
内 半

谷 0072 山花半綻 隆源阿闍梨
内 0072 山花半 隆源
谷 0072 さきさかすむらこににほふ山さくらあすをみてやは立わかるへき
内 0072 さきさかすむらこにゝほふ山桜あすをみてやは立かへるへき

谷 0073 紅葉半落 俊長〈少将〉
内 0073 紅葉半落 俊長少将
谷 0073 打聞
内 0073 いかなれはおなし木すゑのもみち葉をちらしちらさぬかせの吹らむ
谷 0073 いかなれはおなし梢のもみち葉をちらしちらさす風のふくらん
内 0073

谷 [後]
内 後

谷 0074 雨後残花 〈延丁時〉慶能法師〈号横川内供〉
内 0074 雨後残花 慶範法師
谷 0074 ちり残る花を見ましやあま雲のはるゝけふたにたつねさりせは
内 0074 ちりはつる花を見ましやあま雲のはるゝ今日たにたつねさりせは

谷 0075 雨後野花 俊頼
内 0075 〃〃野草 俊頼朝臣
谷 0075 金
内 0075
谷 0075 このさとも冬たちしけりあさちふに露のすからぬ草の葉もなし
内 0075 この里も夕たちしけりあさちふに露のすからぬ草のはもなし

落―綻【宮】
※歌題の下

〈延暦寺〉慶範法師〈号横川内供〉【宮】
※この一首、歌題・作者ともに行間に追記【宮】

※歌題の下

谷 0076 雨後落葉 俊頼
内 0076 〃〃落葉 同
内 0076 詞
谷 0076 名残なく時鳥の空は晴ぬれと又ふるものは木葉なりけり
内 0076 なこりなく時雨の空は晴ぬれと又ふる物は木葉成けり

谷 0077 雨後月明 良暹
内 0077 〃〃月明 良暹
谷 0077 いまはとてぬへかりけりや時鳥つる空とも見えぬすめる月かけ
内 0077 いまはとてぬへかりけりや時雨つる空とも見えすぬ澄る月哉

谷 0078 雨後山水 〈藤〉基俊〈前左兵衛佐〉
内 0078 〃〃山水 藤基俊
谷 0078 芳野山空やむらさめふりぬらんふもとのたきつをとよとむ也
内 0078 よしの山空や村雨ふりぬらし麓のたきつをとゝよむ也

谷 0079 夢後時鳥 〈白川院〉周防内侍〈女房〉
内 0079 夢後郭公 周防内侍
谷 0079 思ひねの夢ちに心かよへはやおきふすとこにきく時鳥
内 0079 おもひねの夢ちに心かよへはやおきふすことに聞時鳥

谷 0080 老後見月 國基
内 0080 老後見月 津守國基
谷 0080 良
内 0080 あはすしておひはてにけるわか身哉こむよのやみもてらせ月かけ
内 0080 あかすして老はてにける我身哉こむ世のやみもてらせ月かけ

谷 0081 山近聞時鳥 〈藤〉盛房〈肥後守〉
内 0081 山近聞郭公 藤盛房
谷 0081 時鳥いかてきかましをとは山すそ野のさとにやとしさりせは
内 0081 時鳥いかてきかましをとは山すそのゝ里にやとらさりせは

谷 [近]
内 近

俊頼ー同【宮】
※歌題の下
鳥ー雨カ【傍】　時鳥ーしくれ【宮】

時鳥ーしくれ【宮】　見えぬーー見えす【宮】　月かけーー月かな【宮】

はやーとも【宮】

※歌題の下

ましーさりし（さりーま歟【傍】）【宮】　やとしーやとら【宮】

谷 0082 山近聞鹿 〈橘〉為義〈但馬守〉
内 0082 山近聞鹿聲 為義朝臣
谷 0082 山さとはさひしけれとも鹿のねをゐなからきくそ人にまされる
内 0082 山里はさひしけれとも鹿のねをゐなからきくそ人にまされる

谷 0083 山近對紅葉 〈藤〉行宗
内 0083 色ふかきよその木すゑのあかなくに手おるはかりにきても見る哉

谷 0083 叢近聞虫聲 源緣
内 0083 草村のとをからませは虫のねをね覚の床にいかてきかまし

谷 0084 梅告春近 顕季
内 0084 梅告春近 顕季卿
谷 0084 雪の内につほみすけりな梅花春たちかたになりやしぬらん
内 0084 雪のうちにつほみにけりな梅花春あけかたに成やしぬらん

谷 遠 ［遠］
内 遠

谷 0085 遠山桜 清家
内 0085 遠山桜 藤清家
内 0085 後
谷 0085 よしの山やへたつみねのしら雲にかさねてみゆるさくら花かな
内 0085 吉堅山やへたつ峯の白雲にかさねてみゆる花さくら哉

谷 0086 遠山花 俊頼
内 0086 〃〃花 俊頼朝臣
谷 0086 神山にまゆふのぬさを引かけてさらすや花のさかりなるらむ
内 0086 神山にまそほのぬさを引かけてさらすや花のさかり成らん

谷 0087 遠山紅葉 為義
内 0087 遠山紅葉 橘為義朝臣

〈藤〉行宗〈伊賀守〉【宮】【三】

＊すけり―に【傍】すけり―にけり【宮】【三】

※歌題の下

谷 0087 都たにさかりに見ゆるもみち葉をふかき山邊をおもひこそやれ
内 0087 都たにさかりとみゆるもみち葉をふかき山へを思ひこそやれ

谷 0088 遠山雪　頼長〈式部太輔〉
内 0088 〃〃雪　頼氏〈式部大夫〉
内 0088 上科抄
谷 0088 よそにのみよしの丶山の雪とみてわか身のうへとしらすもある哉
内 0088 よそにのみよしの丶山の雪とみて我身のうへとしらすも有哉

谷 0089 梅香遠薫　則長
内 0089 梅香遠薫　橘則長
谷 0089 上
内 0089 かをとめて人のくるにそ梅の花はるかにほふものとしりぬる
谷 0089 香をとめて人のくるにや梅の花はるかに丶ほふ物としりぬる

谷 0090 梅香遠薫　俊頼
内 0090 梅香遠薫　俊頼朝臣
谷 0090 心あらはとはましものを梅の花誰かさとよりかにほひきつらむ
内 0090 こゝろあらはとはまし物を梅花たか里よりや匂きぬらん

谷 0091 遠尋花　小辨〈祐子内親王女房〉
内 0091 遠尋花　小弁
内 0091 後
谷 0091 山桜心のまゝにたつねきてかへさそ道のほとはしらるゝ
内 0091 山さくら心のまゝに尋きてかへさそ道の程はしらるゝ

谷 0092 遠尋山花　新院御製
内 0092 たつねつる花のあたりになりにけりにほふにしるし春の山風

谷 0092 遠尋山花　関白
内 0092 帰へきほとをおもはぬ道ならはのとかにみねの花は見てまし

谷 0087 さかりに―さかりと【三】
内 0087 〈中原〉頼長〈式部太輔〉
【宮】【三】
※歌題の下
谷 0088 よしの―みよし野【宮】

※歌題の下

※歌題の下

谷 0093 遠見卯花　俊頼
内 0093 〃見卯花
谷 0093 卯花のよそめなりけりおちこちにいつかはなみのゐせき越ける
内 0093 卯花のよそめなりけりをちこちにいつかは波のゐせきこえける

おちこちに―遠近の【宮】

谷 0094 遠聞時鳥　顕季
内 0094 遠聞郭公　顕季卿
谷 0094 山ひこのこたへさりせはほとゝきす外になくねをいかてきかまし
内 0094 山ひこのこたへさりせは時鳥ほかになくねをいかてきかまし

谷 0095 遠思秋萩　匡房
内 0095 遠思秋萩　匡房卿
谷 0095 みやき野のこのした露のおりかけは小萩かすゑやしほる成らん
内 0095 宮城堅の木のした露のをもけれは小萩か末やちしほなるらん

谷 0096 擣衣聲遠　匡房
内 0096 擣衣聲遠　同人
谷 0096 ころもうつをちのさと人霧ふかみあるかなきかの声きこゆ也
内 0096 衣うつをちの里人きりふかみあるかなきかの聲きこゆなり

谷 0097 月前遠　俊頼
内 0097 月前遠情　俊頼朝臣
谷 0097 いつもにはれぬや雲にとちられてこよひの月やおほろなるらん
内 0097 いつもにはゝれぬか雲にとちられて今夜の月やおほろなるらん

谷 0098 雪中遠情　同
内 0098 雪中遠情　同人
谷 0098 すゝたるまやのあれよりもる月の見しゝをこしぬひにもふるらむ
内 0098 すゝたれるまやのあれよりもる雪やみしゝほこしのひにもふるらん

谷 0099 ［遠近］
内 0099 遠近

谷 0099 遠近卯花　〈藤〉大相國〈実行〉
内 0099 遠近卯花　大政大臣

おりかけ―面かけ【宮】おもかけ【三】

匡房―同【宮】

遠―遠情【宮】

はは―は（かイ【傍】）はれ【宮】

ぬ―の【宮】

大相國【宮】

谷 0099 卯花はをちの垣ねもさきにけりわかやとをのみおりなやつしそ
内 0099 卯花はをちのかきねも咲にけり我宿をしもおりなつくしそ

谷 ［遙〈遐年〉］
内 遙

谷 0100 遙見花　匡房卿
内 0100 遙見花　匡房卿

谷 0100 金
内 0100 初瀬山雲井のはなのさきぬれはあまの河なみたつかとそ見る
谷 0100 はつせ山雲井に花の咲ぬれはあまの川浪たつかとそみる
内 0100

匡房【宮】
※歌題の下

谷 0101 遙見山華　匡房卿
内 0101 〃〃山花　同

華—花【宮】　匡房卿—同
【宮】
※歌題の下

谷 0101 後
内 0101 高砂の尾上のさくらさきにけり外山の霞たゝすもあらなむ
谷 0101 高砂のおのへの桜さきにけりとやまの霞たゝすもあらなむ
内 0101

谷 0102 遠聞郭公　道済
内 0102 遙聞郭公　道済

遠—遙【傍】　遙聞時鳥
【宮】
※歌題の下

谷 0102 上〃
内 0102 はるかなるたゝひと聲に時鳥人のこゝろをあくからしつる
谷 0102 はるかなるたゝ一聲に時鳥人のこゝろをあくからしつる
内 0102

谷 0103 同　〈藤〉長能〈伊賀守〉
内 0103 同　長能〈伊賀守〉

谷 0103 たかさとのありすなるらんほとゝきすあるかなきかに鳴わたる也
内 0103 たかさとのありすなるらん郭公あるかなきかに鳴わたるらん
谷 0103
内 0103

さと—さこ【宮】　ありす—あかす【宮】

谷 0104 同　〈藤〉輔章〈木工頭〉
内 0104 同　輔尹朝臣
谷 0104 ほとゝきすまちしはかりになりにけりこよひもよそに一聲そきく
内 0104 ほとゝきす待しはかりに成にけりこよひもよ所に一聲そなく
谷 0104
内 0104

〈藤〉—〈同〉【宮】

谷 0105 同　〈平〉祐挙〈越中守〉
内 0105 同　平祐挙越中守
谷 0105
内 0105

谷 0105 ほのかなるたゝ一聲は時鳥ねさめくやしきものにそありける
内 0105 ほのかなるたゝ一聲は時鳥ねさめくやしき心ちこそすれ

谷 0106 同　輔親卿
内 0106
内 0106 已上御堂歌合
谷 0106 うとくこそ聲なりぬれと時鳥ま近くたにもあかぬねさめを
内 0106 うとくこそ聲は成ぬれ時鳥まちかくたにもあかぬこゝろを

輔親卿〈祭主〉【宮】
※この行なし。歌が続く。
※歌のあと
時鳥ー郭公【宮】

谷 0107 同　嘉言
内 0107 同　嘉言
内 0107 已上御堂卅講哥合
谷 0107 いつかたときくたにわすすほとゝきすたゝ一聲のこゝろまとひに
内 0107 いつかたときゝたにわかす時鳥たゝ一聲のこゝろまよひに

谷 0108 遙思月　顕季
内 0108 遙思月　顕季卿
谷 0108 こゝろあらはこよひの月をからくにの人もなかめてあかささらめや
内 0108 こゝろあらはこよひの月をから國の人も詠てあかさらめやは

※歌のあと
きくー聞【宮】　わすすー
わかす【宮】わけす【三】

谷 0109 遙見行客　公實卿
内 0109 〃見行客　三条大納言
谷 0109 あまさかるひなのなかちしとをけれはしのふ心もたれもしられす
内 0109 あまさかるひなのなかちしとをけれはしのふの衣たれとしられす

谷 0110 花契遐年　顕輔卿
内 0110 花契遐年　顕輔卿
谷 0110 金
内 0110
谷 0110 よろつよに見るへき花の色なれとけふのにほひはいつか忘れん
内 0110 万代世にみるへき花の色なれや今日の匂はいつかわすれん

※歌題の下

谷 0111 松契遐年　顕季
内 0111 松〃〃〃　顕季卿
谷 0111 ことしより枝さしそむる岑のきの花のおり〳〵君そ見るへき
内 0111 ことしより枝さしそふる松の木の花のおり〳〵君そみるへき

谷　長
内　長

谷　0112　池水長澄
内　0112　池水長澄
谷　0112　〈藤〉範永
内　0112　藤範永朝臣
谷　0112　後
内　0112　今年たにかゝみとみゆる池みつのちよへてすまん影そ床しき
谷　0112　ことしたにかゝみと見ゆる池水の千代經てすまんかけそゆかしき

谷　0113　妹夜長
内　0113　俊頼

谷　0113　秋のよの鳥のはつねはつれもなき人まちしよのこゝちこそすれ

※歌題の下
みつの―水に【宮】

こゝち―こゝろ【宮】

谷　0114　冬夜長
内　0113　〈藤〉家經〈讃岐守〉
谷　0114　秋夜長
内　0114　家經朝臣
谷　0113　ね覚せし後もひさしき冬なれはおひぬる人そまつしられぬる
内　0113　ね覚して後もさひしき秋の夜はおいぬる人そまつしられける

谷　0115　雪中夜長
内　0114　匡房
谷　0115　雪中夜長
内　0115　匡房卿
谷　0115　長夜に降つむゆきはしら雲のかゝるはかりの山とならなむ
内　0114　なかき夜にふりつむ雪は白雲のかゝるはかりの山と成らん

谷　　
内　短
谷　　
内　短

谷　0116　堅草緑短
内　0115　新院御製
谷　0116　野草緑短
内　0115　新院御製
谷　0116　よ所にてはこけむす野へと見えつるやいまもえいつる小草なるらん
内　0115　よそにてはこますむ堅へとみえつるやいまもえいつるこ草成らん

よ所―はる【三】

谷　0117　夏夜短
内　0116　俊頼
谷　0116　夏夜短
内　0116　俊頼朝臣
谷　0117　なつのよは俄にてらすいなつまのひかりのまにそ明ぬへらなる
内　0116　夏夜はにはかにてらすいなつまの光のまにそあけぬへらなる

谷　内

久

谷　0118　梅花久薫
内　0117　匡房
谷　0118　梅花久薫　匡房卿
内　0117　九重にやえ咲梅のことしよりよろつよへてしにほふはかりそ
谷　0118　ここのへにやへさく梅のことしより萬代へても匂ふはかりそ
内　0117　へてし―経ても【宮】

谷　0119　同
内　0118　同座　〈藤〉顕仲〈前兵衛佐〉
谷　0119　顕仲入道
内　0118　梅かえにかせをいとへる春なれはのとかに花もにほふなりけり
谷　0119　梅かえに風をいとへる春なれはのとかに花も匂ふ成けり

谷　0120　庭花久薫
内　0119　庭花久薫　〈藤〉忠教〈大納言〉
谷　0119　忠教卿
内　0119　皇嘉門院立后後始会
谷　0120　堀うへしわかきの梅にさく花はとしもかきらすにほふなりけり
内　0119　ほりうへしわか木の梅に咲花は年もかきらすにほふなりけり
※歌のあと

谷　0121　藤花年久
内　0120　藤花年久　〈源〉師頼卿〈大納言〉
谷　0121　師頼卿
内　0120　春日山北のふちなみさきしよりさかゆへしとは思ひしりにき
谷　0121　春日山きたの藤波さきしよりさかゆへしとは思ひしりにき
内　0120

谷　0122　岸菊久匂
内　0121　岸菊久匂　〈善滋〉為政〈文章博士〉
谷　0122　善滋為政
内　0121　みとりなる松の千とせをあらそふはみきはにさけるしらきくのはな
谷　0122　みとりなる松のちとせをあらはすは汀にさける白菊の花
内　0121

谷　0123　岸松久緑
内　0123　大相國
谷　0123　池水のきしの岩ねにねをとめておいそふ松のいく世ぬらん
内　0123　ぬらん―へぬらむ【宮】

内谷
［舊〈懐旧　古〉］
舊　古　懐舊

内谷 0124
舊年梅花　明快僧正〈天台座主〉
内谷 0122
舊年梅花　明快僧都
内谷 0124
山さとのかきねの梅はさきにけりかはかりこそはるもにほはめ
内谷 0122
山さとのかきねの梅は咲にけり香はかりこそは春も匂はめ

内谷 0125
對月恋舊久　〈中原〉長國〈肥後守〉
内谷 0124
對月戀古　中原長國
内谷 0125
月にこそむかしのことはおほえけれわれをわするゝ人に見せはや
内谷 0124
月にこそむかしのことはおほえけれわれをわするゝ人に見せはや
玄〃集

内谷 0126
對月懐舊　師光
内谷 0125
對月懐舊　源師光〈前蔵人之時詠之〉
内谷 0125
つねよりもさやけき夜半の月を見て哀こひしき雲の上かな
内谷 0126
つねよりもさやけき夜はの月をみてあはれ恋しき雲のうへ哉
内谷 0125
後

内谷 0127
月照古橋　三宮
内谷 0123
月照古橋　三宮
内谷 0123
金
内谷 0127
とたえして人もかよはぬ朽はしは月はかりこそすみわたりけれ
内谷 0123
とたえして人もかよはぬたなはしは月斗こそすみわたりけれ

※歌題の下

内谷
［年］
年〃

内谷 0128
年〃見花　大相國
内谷 0126
年〃見花　大政大臣
内谷 0128
おりて見る花のかさなる花なれはにほはむ春のかきりなき哉
内谷 0126
おりてみる年のかさなる花なれはにほはん春のかきりなき哉

内谷
［時〃］
時〃

※歌題の下

こそ―こそは【宮】

久―人【宮】

※歌題の下

む―ぬ（む【傍】）【宮】

谷 0129 時〃會恋 顕國
内 0127 時〃會恋 顕國朝臣
内 0129 金
谷 0127 わか恋は賤のしけいとすちよはみたえまはおほくくるはすくなし
内 0127 我恋はしつのしけ糸すちよはみたえまはおほくくるはすくなし

※歌題の下

谷 0130 同
内 0128 同座 顕仲入道
谷 0130 めつらしといはるゝ程にあふなかはいく夜をよそにへたてきぬらん
内 0128 めつらしといはるゝほとにあふ中はいくよをよそにへたてきぬらん

谷 内 [暁]
暁

谷 0131 暁聞鶯 〈源〉雅兼卿〈中納言〉
内 0129 暁聞鶯 雅□卿
内 0129 金
谷 0131 うくひすの木つたふさまもゆかしきに今一こゑは明はてゝなけ
内 0129 鶯の木つたふさまもゆかしきに今一聲は明はてゝなけ

雅兼卿〈中納□〉【宮】

※歌題の下

谷 0132 暁尋花 顕季
内 0130 暁尋花 顕季卿
谷 0132 夢さめていそきそきつる山桜あさ吹かせのたゝぬさきにと
内 0130 夢覚ていそきそみつる山桜あさふく風のたゝぬさきにと

谷 0133 同 〈藤〉贈左大臣〈長実〉
内 0131 同 贈左大臣
谷 0133 たつぬるをまたてや花のさきぬらんゆきふりにけり春の明ほの
内 0131 たつぬるをまたてや花の散ぬらん雪ふりにける春の明ほの

谷 0134 暁天尋花 俊頼
内 0132 暁天尋花 俊頼朝臣
谷 0134 霞もや花のあたりをたつぬらんよをまつこめてたなひきにけり
内 0132 霞もや花のありかを尋ぬらん夜をさへこめてたなひきにけり

まつ―さき【宮】

谷 0135 暁天水鶏
内 0133 〃〃水鶏
谷 0135 顕季
内 0133 顕季卿
またしいまは八聲の鳥もなきぬなり何おとろかすくひなるらん
またしいまはやこゑの鳥も鳴にけりなにをとろかす水鶏なるらん

谷 0136 暁聞時鳥
内 0134 暁聞郭公
谷 0136 〈源〉定信〈刑部大輔〉
内 0134 源定信
わきもこにあふさか山のほとゝきすあくれはかへる空になく也
わきもこにあふ坂山の時鳥あくれはかへるそらになくなり

谷 0137 山家暁蛍
内 0135 山家暁蛍
谷 0137 俊頼
内 0135 俊頼朝臣
あしの屋のひまほの〳〵としらむまてもえあかしてもゆく蛍哉
あしの屋のひまほの〳〵にしらむまてもえあかしても行蛍かな

谷 0138 行路暁月
内 0136 行路暁月
谷 0138 〈興福寺〉永縁僧正〈別当〉
内 0136 永縁僧正
金
もろともにいつとはなしに有明の月のみをくる山ちをそゆく
もろともにいつとはなしにあり明の月のみをくる山ちをそゆく

谷 0139 関路暁月
内 0137 関路暁雪
谷 0139 永胤法師〈号雲林院供奉〉
内 0137 永胤
いかてけふ堅かみのさとを過ゆかん夜ふかく関の雪ふりにけり

谷 0140 羇中暁思
内 0138 羇中暁思
谷 0140 俊頼
内 0138 俊頼朝臣
いとゝしく旅ねの床の露けきに鴨のはねかきなみたそふ也
いとゝしく旅ねの床の露けきに鴨のはねかき泪そふなり

谷 0141 朝見花
内 0139 朝見花
谷 匡房
内 匡房
なきぬ―なかぬ【宮】
わきもこに―わきもこか【宮】
※歌題の下
※一行空白

内 谷 ［朝］

谷 0141 山桜わきそかねつるみよしのゝよこ雲わたる春のあけほの
内 0139 山桜わきそかねつるみよしのゝ横雲わたる春の明ほの

わきそ―わけそ【宮】

谷 0142 朝見瞿麦　新院御製
内 0142 あさ日さすやとの籬になてしこの夕くれなゐにいかて見ゆらん

なゐ―浪【宮】

谷 0143 山家雪　經信卿
内 0143 山家雪朝　經信卿
谷 0144 朝戸明て見るさひしかたをかのならのかれ葉にふれる白雪
内 0140 朝戸あけてみるそさひしき片岡のならのかれはにふれる白雪

雪―雪朝【宮】
見るさひし―みるそさひしき【宮】

谷 0144 雪朝眺望　俊頼
内 0141 雪朝眺望　俊頼
谷 0144 なかめやれはこゝろ山を誰かためにあくれは雪のふりおほふらん
内 0144 詠やるはこねの山をたかためにあくれは雪のふりおほふらん

谷 暮〈晩夕〉
内 暮〈暁夕〉

谷 0145 尋花日暮　〈藤〉國房〈石見守〉
内 0150 尋花日暮　國房
谷 0145 月まちて又やたつねん桜はなたそかれときになりぬとならは
内 0150 月まちて又やたつねむ桜花たそかれ時になりぬとならは

谷 0146 花下日暮　行盛
内 0151 花下日暮　行盛
谷 0146 つまきこりかへる賤おにことつてゝこよひは花のもとにやとらん
内 0151 つま木こりかへるしつおにことつてゝ今夜は花のもとにやとらん

谷 0147 暮天落花　匡房卿
内 0142 暮天落花　匡房
谷 0147 ゆふされはおほつかなしや山桜ちりかふ花のゆくゑ見えねは
内 0142 夕されはおほつかなしや山桜ちりかふ花のゆくゑ見えねは

匡房【宮】

谷 0148 暮天郭公 顕季
内 0143 〃〃郭公 顕季卿
谷 0148 ゆふつくひゐるさの山に時しもあれおりはへて鳴ほとゝきすかな
内 0143 夕つくひいるさの山に時しまれおりはへてなく時鳥かな

谷 0149 晩聞時鳥 俊頼
内 0144 晩聞郭公 俊頼朝臣
谷 0149 みくまのゝはまゆふかけて時鳥鳴ねかさねよいく夜なりとも
内 0144 みくまのゝ濱ゆふかけて郭公鳴ねかさねよいくへ成とも

谷 0150 盧橘晩薫 顕季
内 0145 盧橘晩薫 顕季卿
谷 0150 軒ちかき花たちはなのにほふかはたそかれ時そおほめかれける
内 0145 軒ちかく花たちはなのにほふかにたそ時そおほめかれける

谷 0151 水聞晩涼 俊頼
内 0146 水風晩涼 俊頼朝臣
谷 0151 風ふけははすのうき葉にたまこえて涼しくなりぬひくらしの聲
内 0146 風ふけははすのうきはに玉こえて涼しく成ぬ日くらしの聲

谷 0152 船中晩涼 〈橘〉俊宗〈大宮少進〉
内 0147 舟中晩涼 橘俊宗
谷 0152 夕附夜なかれる水に袖ひちてさすにすゝしきたかせ舟哉
内 0147 ゆふつく夜やとれる水に袖ひちてさすに涼しきたかせ舟哉

谷 0153 對泉日暮 〈藤〉仲實〈前越前守〉
内 0152 對泉日暮 仲實
谷 0153 けふも又いりあひのかねそきこゆなるおほろの清水結ひつるまに
内 0152 けふも又入会のかねそきこゆなるおほろのし水むすひつるまに

谷 0154 秋野日暮 〈藤〉師房〈散位〉
内 0153 秋野日暮 藤時房
谷 0154 をくら山すそのゝすゝきまねきけりこよひはこゝに宿やからまし
内 0153 をくら山すそのゝ薄まねきけり今夜はこゝにやとやからまし

の―に【宮】
聞―風【宮】

谷 0155 旅亭秋暮 〈藤〉隆資〈武蔵守〉
内 0154 旅亭秋暮 藤隆資
谷 0155 思ひきや旅の空にてむら鳥のわかるゝ秋をおしむへしとは
内 0154 おもひきや旅のそらにてむら鳥のわかるゝ秋をおしむへしとは

谷 0156 山家歳暮 成助〈賀茂神主〉
内 0155 山家歳暮 賀茂成助
谷 0156 山里は過行としのくれことに人めは見えて老のみそくる
内 0155 山里はすきゆく年の暮ことに人めは見えて老のみそくる

谷 0157 山家晩望 國房
内 0148 山家晩望 國房
谷 0157 山かつの堅かひの駒もかへるめりはつせに草をしかひかけつゝ
内 0148 山かつの堅かひの駒もかへるめりはつせにくまをしかひかけつゝ

谷 0158 晩望行路 經信卿
内 0149 暮望行客
谷 0158 ゆふ日さすあさちかはらの旅人はあはれいつこを宿にかるらん
内 0149 夕日さすあさちか原の旅人は哀いつくにやとをかるらん

谷 [夜]
内 夜 暗

谷 0159 春夜尋鶯 為義
内 0156 春夜尋鶯 為義朝臣
谷 0159 みちしらは尋にゆかむ鶯はいつれの花をねくらにかする
内 0156 路しらはたつねもゆかん鶯はいつれの花をねくらにかする

谷 0160 叢中夜虫 〈平〉兼盛
内 0157 叢中夜虫 兼盛
谷 0160 ちとせとそ草むらことにきこゆなるこや松虫の聲には有らん
内 0157 ちとせとそ草むらことにきこゆなるこや松むしの聲には有らん

谷 0161 夜思山雪 永胤
内 0158 夜思山雪 永胤

〈藤〉ーナシ【宮】
にてーにそ【宮】
人めはー人めも【宮】

谷 0161 うたゝねにさゆるころものけしきにて越のしらねの雪をしそ思ふ
内 0158 うたゝねにさゆる衣のけしきにてこしのしらねの雪をしそ思ふ

谷 暗［暗］

谷 0162 暗夜尋梅花 重如
内 0159 暗夜尋梅花 山口重如
谷 0162 くらけれは色こそ見えね梅のはなありとはかりはしられぬるかな
内 0159 くらけれは色こそみえね梅の花ありと斗はしられぬる哉

谷 0163 闇夜待時鳥 〈源〉兼澄〈加賀守〉
内 0160 暗夜待郭公 兼澄
谷 0163 くらき夜にわれまちわひぬ時鳥たとる〳〵もはつねきかせよ
内 0160 くらきよにわれまちかねぬ時鳥たとる〳〵とはつねきかせよ

谷 明［明］

谷 0164 雨後月明 良暹
内 0161 雨後月明 良暹
谷 0164 いまはとてぬへかりけりや時鳥つる空とも見えすすめる月哉
内 0161 いまはとてぬへかりけりや時雨つる空とも見えすすめる月かな

谷 0165 葉落月明 國房
内 0162 葉落月明 藤國房
谷 0165 月見るそれしかりけるわかやとのそとものこたちときはならねは
内 0162 月もるそうれしかりける我やとのそとものこたけときはならねは

谷 暗夜待郭公【宮】
内 暗夜待郭公〈源〉兼隆〈加賀守〉【宮】
谷 きかせよ―きかせて【宮】

谷 ありと―あり【宮】

谷 時鳥―しくれ【宮】

谷 題ナシ【宮】

谷 ならねは―ならねと【宮】

谷 0166 霽月明 俊頼
内 0163 漢霽月明 俊頼朝臣
谷 0166 晴ぬれはのこれるくまもなかりけり空こそ月のひかりなりけれ
内 0163 はれぬれはのこれる雪もなかりけり空こそ月の光也けれ

谷 霽［霽〈晴〉］
内 霽 晴

谷 漢霽月明【宮】

谷　内　［未晴］
未晴

谷　0167　河霧未晴
内　0164　〈源〉頼家〈前筑前守〉
内　0164　河霧未晴　頼家
内　0164　関白殿蔵人所歌合年号可尋
谷　0167　河霧のはれせぬ秋はわたしもりわたる人にやあくるをはとふ
内　0164　川きりのはれせぬ秋はわたしもりわたる人にやあくるをはとふ

※標目「未晴」の下

谷　内　［幽］
幽

谷　0168　谷水音幽
内　0165　同
谷　0165　谷水音幽
谷　0168　同
内　0165　岩間うけもりくる谷のした水はをとたにたかくきこえさりけり
内　0165　石まわけもりくる谷のした水はをとたにたかくきこえさりけり

うけ―わけ【宮】

谷　内　［閑〈静〉］
閑　静

谷　0169　閑庭梅花　経信卿
内　0166　閑庭梅花　経信
内　0166　於朱雀院詠之
内　0166　金
内　0169　けふこゝに見えこさりせは梅のはなひとりや春のかせにちらまし
内　0166　けふこゝに見にこさりせは梅の花ひとりや春の風にちらまし

※歌題の下
※歌題の下
見え―見に【宮】

谷　0170　閑庭有明月　伊勢大輔
内　0167　〃〃在明月　伊勢大輔
谷　0170　あり明の月はかりこそかよひけれくる人なしの宿の庭にも
内　0167　あり明の月はかりこそかよひけれくる人なしのやとの庭にも

〈上東門院女房〉伊勢太輔【宮】

谷　0171　雨中閑居　顕季
内　0168　雨中閑居　顕季卿

谷 0171 五月雨にとふ人もなき山さとは軒のしつくのをとはかりして
内 0168 五月雨にとふ人もなし山里は軒のしつくのをとはかりして

谷 0172 山館閑居 平源法師
内 0169 山館閑居 〻源
谷 0172 つれ〳〵のはてはゆきゝのあともなきたこのいほりにとしをふるかな
内 0169 つれ〳〵とはてはゆきゝのあともなき谷のいほりに年をふる哉

谷 0173 閑聞郭公 經衡
内 0173 われならぬ人はねにけり時鳥きゝやしつると誰にいはまし

谷 0174 閑居郭公 永胤
内 0174 閑中郭公 永胤
谷 0174 時鳥きなかさりせは山さとのさひしきやとをたれかとはまし
内 0174 時鳥きなかさりせは山里のさひしきやとを誰かとはまし

谷 0175 月閑中友 〈橘〉義通
内 0175 月閑中友 橘義通
谷 0175 しつかにも秋の夜すから老らくのかけをもはちす月をみる哉
内 0175 しつかにも秋の夜すからおいらくのかけをもはちす月をみる哉

谷 0176 閑見月 俊頼
内 0176 閑見月 俊頼朝臣
谷 0176 金
内 0176 すみのほるこゝろや空をはらふらむ雲のちりゐぬ秋のよの月
谷 0176 すみのほる心や空をはらふらん雲のちりゐぬ秋のよの月

谷 0177 山家冬閑 同
内 0177 山家冬閑 俊頼朝臣
谷 0177 跡たえてさひしき宿の冬のよは山ふくかせもとまらさりけり
内 0177 あとたえてさひしきやとの冬の夜はやとふく風もとまらさりけり

谷 0178 閑静花香 同
内 0174 風静花香 同

居—中【傍】閑中時鳥【宮】
時鳥—郭公【宮】

郭公—時鳥【宮】

※歌題の下
空を—そらに【宮】

跡—後【三】

閑—閑（風【傍】）【宮】
同—俊頼【宮】

谷 0178 梢には吹とも見えてさくらはなかほるそかせのしるしなりけれ
内 0174 梢にはふくとも見えて桜花かほるそ風のしるしなりける

谷 [不閑]
内 不閑

谷 0179 花時不閑
内 0175 花時不閑 嘉言
谷 0179 さかぬより散るまてはなにつけたれは春の心の空にも有かな
内 0175 さかぬよりちるまて花につけたれは春の心の空になる哉

内 [涼〈冷 納涼〉]
谷 涼 冷 納涼

谷 0180 松風暁吟 顕仲卿
内 0176 松風暁冷 顕仲卿
谷 0180 あかつきやをしまか磯の松風にころもかさねよゆらの浦人
内 0176 あかつきやをしまかいその松風に衣かさねよゆらのうら人

谷 0181 月夜自涼 俊頼
内 0177 月夜自涼 俊頼朝臣
谷 0181 ころもてやゝはたさひし夏の夜の月のひかりは秋の空かは
内 0177 衣手ややゝはたさむし夏の夜の月の光はあきの空かは

谷 0182 月前遂涼 同
内 0178 月前逐涼 同
谷 0182 しはつ山ならのわか葉にもる月のかけさゆるまて夜はふけにけり
内 0178 しはつ山ならのわか葉にもる月のかけさゆるまて夜は更にけり

谷 0183 泉邊納涼 家經
内 0179 泉邊納涼 同
谷 0183 楸おふるかた山かけの石井つゝふみならしてもすゝむ比かな
内 0179 楸おふるかた山かけの石ゐつゝふみならしてもすゝむ比かな

谷 内 0180 水邊納涼 家經

吟―冷【宮】
ゆら―本ノマヽ【傍】
さひし―さむし【宮】

谷 0180 風ふけは河邊すゝしくよる波の立帰へき心ちこそせね

谷 [寒] 寒

谷 0184 山寒花遅
谷 0181 山寒花遅 顕季卿
谷 0184 吉野山春はなかはのすきぬれは雪きえやらて花さかぬかも
谷 0181 吉堅山はるはなかはに過ぬれと雪きえやらて花さかぬかも

谷 0185 泉聲入夜寒 師資
谷 0182 泉聲入夜寒 師賢
谷 0185 さよふかきいは井の水のをときけはむすはぬ袖も涼しかりけり
谷 0182 さよふかきいは井の水の音きけはむすはぬ袖もすゝしかりけり

谷 0186 寒夜明月 〈或坂上歟〉定成〈明法博士〉
谷 0186 をく霜に月のひかりのかよひつゝあはれさやけき冬の夜はかな

谷 0187 月照寒草 新院御製
谷 0187 をみなへし月のひかりに思ひいてゝをのかさかりの秋や恋しき

谷 0183 水邊寒草 公長卿
谷 0183 高根には雪ふりぬらしましは川ほきのかけ草たるひすかれり

谷 0188 野徑寒草 俊頼
谷 0184 堅徑寒草 俊頼朝臣
谷 0188 みちすからかれにたてるかをかはなふりわけかみにしもふりにけり
谷 0184 みちすから枯堅にたてるかほか花ふり分かみに霜をきにけり

ぬれは―ぬれと【宮】

〈或坂上歟〉―〈坂上〉【宮】

かれ―枯堅【宮】

谷　　【温】
内　温　照

谷　0189　泉温草色春　安法〻師
内　0185　泉温草色春　安法〻師
谷　0188　岩間なるいつみぬるけくなりぬれは汀の草に春はきにけり
内　0185　岩まなるいつみぬるけくなりぬれは汀の草に春はきにけり

谷　　【照】
内　照

谷　0190　月照梅花　俊頼
内　0186　月照梅花　俊頼朝臣
谷　0190　色にこそかけをもそへめ梅のはなかをさへ月のもてはやすらん
内　0186　色にこそかけをもそへめ梅花かをさへ月のもてはやすかな

谷　0191　月照草花　殿下
内　0187　月照草花　関白
谷　0191　月かけのいかにさせはか秋の野の千種のはなのひもをとくらん
内　0187　月かけのいかにさせはか秋の〻の千くさの花のひもをとくらん

谷　0192　月照紅葉　顕季
内　0188　月照紅葉　顕季卿
谷　0192　うすくこくもみちの色のみゆるまてくまなくてらす夜半の月哉
内　0188　うすくこく紅葉の色のみゆるまてくまなくてらすよはの月哉

谷　0193　月照菊花　同
内　0189　月照菊花　同
谷　0193　いかはかりくまなき夜半の月なれや八重咲菊のかす見ゆるまて
内　0189　いかはかりくまなきよはの月なれや八重さく菊のかすみゆるまて

谷　0194　月照田家　新院御製
内　0194　月きよみ田なかにたてるかりいほのかけはかりこそくもりなりけれ

はか―はや【宮】　を―に【宮】

谷 0195 月照網代 經信卿
内 0199 〃〃網代 經信卿
内 0190 金 月きよみ瀬ゝのあしろによるひをは玉藻にさゆる氷なりけり
谷 0195 月きよみせゝのあしろによるひをは玉もにさゆる氷なりけり
内 0190

※歌題の下

谷 0196 月照旅宿 顕季
内 0191 〃〃旅宿 顕季卿
谷 0196 いさゝめにさそはぬ月ともろ共に旅のいほりに夜をあかす哉
内 0191 いさゝめにさよはや月ともろともに旅のやとりに夜をあかす哉

谷 漏 ［漏］
内 漏

谷 0197 月影漏屋 無
内 0192 月景漏屋 無名
内 0192 河原院歌合
谷 0197 雨ならて年のふるにもわか宿は月もるはかりあれにけるかな
内 0192 雨ならてとしのふるにも我宿は月もるはかりあれにける哉

※標目「漏」の下
宿は―宿の【宮】

谷 ［早］
内 速 早

谷 0198 郭公早過 匡房
内 0193 郭公早過 匡房
谷 0198 あまのかるいらこるさきのなのりそのなのりもはてぬ時鳥かな
内 0193 あまのかるいそらかさきのなのりそのなのりもはてぬ郭公哉

郭公―時鳥【宮】
いらこる―いらこか【宮】

谷 0199 暁早知早凉 顕季
内 0194 暁知早凉 顕季
谷 0199 秋かせややゝたちぬらん夢さめてたもとすゝしくなりもゆく哉
内 0194 秋風ややゝたちぬらん夢さめてたもとすゝしくなりもゆく哉

谷 0200 田家早穐 〈藤〉伊通卿〈大納言〉
内 0195 田家早秋 伊通
内 0195 金

※歌題の下

谷 0200 いなはふく風のをとせぬやとならはなにゝつけてか秋をらまし
内 0195 稲葉ふく風のをとせぬやとなれはなにゝつけてか秋をしらまし

谷 [遅]
内 遅

谷 0201 山寒花遅 顕季
内 0196 山寒花遅 顕季
谷 0201 芳野山はるはなかはになりぬれと雪きえやらて花さかぬかも
内 0196 吉堅山春はなかはになりぬれと雪きえやらて花さかぬかも

谷 0202 山桜遅開 頼家
内 0202 山桜遅開 頼家
谷 0202 さかむともおもはさりけり山桜今はちるへき程にやはあらぬ
内 0202 さかむともおもはさりけり山桜今はちるへき程にやはあらぬ

谷 0197 深山桜遅 經信
内 0197 深山桜遅 經信
谷 0197 いまはさけみ山かくれのをそさくら思ひわすれて春をすくすな
内 0197 いまはさけみ山かくれのをそさくら思ひわすれて春をすくすな

谷 0203 同 無
内 0198 山桜遅開 頼家
谷 0203 霞たつ春のなかはにすくるまてこゝろもとなき山さくらかな
内 0198 霞たつ春のなかはに過るまて心もとなき山さくらかな

谷 0204 同 範永
内 0199 同座 範永
谷 0204 ひときたにいまもさかなん山桜あすをまつへわか身ならぬに
内 0199 一木たにいまもさかなむ山桜あすをまつへき我身ならねは

谷 [遅速]
内 遅速

谷 0205 花有遅速 〈藤〉兼房〈讃岐守〉
内 0200 花有遅速 匡房

らまし—しらまし【宮】
な*れは—ら【傍】

まつへ—まつへき【宮】

谷 0205 きのふ見し人はちりぬといひしかとけふまてちらぬはなもありけり
内 0200 きのふ見し人はちりぬといひしかとけふまてちらぬ花もありけり

谷 0206 同 公資
内 0201 同 公資

内 0201 打聞
谷 0206 咲ことの一たひならぬ山桜いつをかはなのさかりとは見む
内 0201 さくことのひとたひならぬ山桜いつをか花のさかりとは見む

※歌題の下

谷 期
内 期［期］

谷 0207 織女期秋 〈清原〉元輔〈肥後守〉
内 0202 織女期秋 清原元輔
谷 0207 七夕にとふよしもかなあまの川けふをちきりていく世すきぬと
内 0202 七夕にとふよしもかなあまの川けふをちきりていくよ過ぬと

かなーなし【宮】

谷 初 始
内 初［初〈始〉］

谷 0208 初聞鶯 公実卿
内 0203 初聞鶯 三条大納言

内 0203 金
谷 0208 けふよりや梅のたちえに鶯のこゑさとなるゝはしめなるらん
内 0203 けふよりや梅のたちえに鶯の聲さとなるゝはしめなるらん

※歌題の下

谷 0209 同 大相國
内 0209 いまそしるみやまかくれのふるすより木すゑにうつる鶯の聲

谷 0210 水草初長 匡房
内 0205 水草初長 匡房
谷 0210 難波江やあしもまこもゝしらすけもつのくに程はえこそ見わかね
内 0205 難波江のあしもまこもゝしらすけもつのくむ程はえこそ見わかね

つのくにーつのくむ【宮】

谷 0211 初聞郭公 俊頼
内 0204 時鳥は山のすそをたつねつゝまた里なれぬはつねをそきく
谷 0211 俊頼朝臣
内 0204 時鳥葉山のすそをたつねつゝまたさとなれぬ初音をそきく

郭公—時鳥【宮】

谷 0212 池水初氷 素意法師
内 0206 素〈紀伊入道〉
谷 0212 池水にやとれる月はくまなくてみきははかりそまつこほりける
内 0206 池水にやとれる月はくまなくて汀はかりそ氷そめける

素意法師—俗名重經【傍】
みきは—砌【宮】

谷 0213 同 隆資
内 0207 同座 隆資
谷 0213 うす□ほりこよひや池にとちつらんみなるゝをしの音もきこえぬ
内 0207 うす氷こよひや池にとちつらんみなるゝをしのをともきこえぬ

うす□ほり—薄氷【宮】

谷 盛〔盛〕

内 遂年花盛 顕輔卿
谷 0214 逐年花盛 顕輔
内 0208 としをはてさきそふ花や君か代のすゑはる〳〵のかさしなるらむ
谷 0214 年をへて咲そふ花や君か代のすゑはる〳〵のかさしなるらん
内 0208

はて—へて【宮】

谷 0215 萩盛待鹿 白川院御製
内 0209 萩盛待鹿 白河院
谷 0215 後
内 0209 かひもなきこゝちこそすれさをしかのたつこゑもせぬ萩のにしきは
谷 0215 かひもなき心ちこそすれさをしかのたつこともせぬ萩の錦は

※歌題の下

谷 終〔終〕

内 終日尋花 〈源〉直高
谷 0216 終日尋花 源貞高朝臣
内 0210 金

※歌題の下

谷 0216 しら雲にまかふ桜をたつぬとてかゝらぬ山のなかりつるかな
内 0210 白雲にまかふ桜をたつぬとてかゝらぬ山のなかりつる哉

谷 0217 終日對菊　行宗卿
内 0211 終日對菊　行宗
谷 0217 いつしかとあさ戸をあけて菊の花月□ひかりのさすまてそみる
内 0211 いつしかと朝戸をあけて菊の花月の光のさすまてそみる

谷 0218 終夜待郭公　俊頼
内 0212 終夜待郭公　俊頼朝臣
谷 0218 あけぬなりつゐにはなのれ時鳥まつにはなかぬものとしらるな
内 0212 あけぬなりつゐにはなのれ時鳥待にはなかぬ物としらるな

谷 0219 終夜見月　匡房卿
内 0213 終夜見月　匡房
谷 0219 妹のよのよひより月をなかめてはあけゆくあまの戸こそおしけれ
内 0213 妹のよのよひより月を詠てはあけぬるあまの戸よりおしけれ

谷 0220 終夜聞落葉　俊頼
内 0215 〃〃聞落葉　俊頼朝臣
谷 0220 ひとりぬるふせやのひまのしらむまておきのかれ葉に木のはちるなり
内 0215 ひとりぬるふせやのとこのしらむまて荻のかれはに木のはちるなり

谷 0221 終夜惜秋　範永
内 0214 〃〃惜秋　範永
谷 0221 後あけはては堅へをまつみむ花すゝきまねくけしきは秋にかはらし
内 0214 明はては堅へをまつみん花薄まねくけしきは秋にかはらし

谷 0222 花盡春残　頼仲
内 0216 花盡春残　源頼仲
谷 0222 桜はなしるしはかりものこらねはかすみにのみそはるはしらるゝ
内 0216 さくら花しるしはかりものこらねは霞にのみそ春はしらるゝ

□―の【宮】

待―対【三】

しらるな―しらるれ【宮】

匡房【宮】

※歌題の下

〈源〉頼仲【宮】

谷 内 ［盡］盡

谷 0223 庭盡秋花 頼家
内 0217 庭盡秋花 頼家
内 0217 後
谷 0223 わか宿にちくさのはなを植つれは鹿のねのみや堅へにのこらん
内 0217 我やとに千草の花をうへつれは鹿のねのみや堅へにのこらん

※歌題の下

谷 0224 同
内 0218 同
内 0218 同 頼實
谷 0224 後
内 0218 我宿に花をのこさす移し植て鹿のねきかぬのへとなしつる
内 0218 わかやとに花をのこさすうつしうへて鹿のねきかぬ堅へとなしつる

※歌題の下

谷 [遂]
内 逐

谷 0225 遂年花盛
内 0219 逐年花盛 贈左大臣
内 0225 老ぬれとなとかこゝろの色ならんことしのみ見る花さかりかは
谷 0219 贈左大臣
内 0219 老ぬれと猶や心の色ならむことしのみ見る花さかりかは

老ぬれと—老ぬれは【宮】
かは—かな【宮】

谷 0226 遂日花盛 永源法師
内 0220 逐日花盛 永源
谷 0220 昨日にもけふはまされる花なれはあすのにほひをおもひやるかな
内 0220 きのふにもけふはまされる花なれはあすの匂ひを思ひこそやれ

遂—逐【三】

谷 0227 遂日看花 白河院御製
内 0221 逐日看花 白河院御製
谷 0227 さきしより散るまて見れは木のもとに花もひかりもつもりぬるかな
内 0221 咲しよりちるまて見れは木の本に花も日数もつもりぬるかな

谷 0228 同 公実卿
内 0222 同 三条大納言
谷 0228 ふくかせにちらてまつへきはなならはめかれするひもあるへきものを
内 0222 吹風にちらて待へき花ならはめかれするひもあらまし物を

谷 0229　遂日草滋
内 0223　顕季
谷 0229　逐日草滋
内 0223　顕季卿
谷 0229　まくす原しけれるのへのしけきかなとしは数へも見えす成ゆく
内 0223　まくす原しけれる堅へのけしき哉としはか末も見えすなりゆく

谷 0230　遂夜待郭公
内 0224　同
谷 0230　〃夜待郭公
内 0224　同
谷 0230　まつも猶ねていく夜にかなりぬらん山ほとゝきすいつかきなくと
内 0224　さても猶ねていくよにか成ぬらん山時鳥いまやきなくと

谷 0231　遂夜風涼
内 0225　俊頼
谷 0225　〃〃風涼
内 0225　俊頼朝臣
谷 0231　軒ちかき萩のうはかせさえそめていく夜か人にしのはれぬらむ
内 0225　軒ちかく荻のうは風さえそめていく夜か人にしのはれぬらん

谷 0232　水遂夜結
内 0226　〈藤〉孝善〈左衛門尉〉
谷 0226　氷逐夜結
内 0226　藤孝善
谷 0232　後
内 0226　烏羽玉の夜とへてこほるはこのいけは春とゝもにやなみも立らん
谷 0232　むは玉のよをへてこほるはこの池は春とゝもにや浪もたつらん
内 0226

谷 0233　秋夜遂露開
内 0227　元輔
谷 0233　妹花逐露開
内 0227　元輔
谷 0233　ほころひて花さきにけりふちはかまにほひに結ふ露にまかせて
内 0227　ほころひて花さきにけりふちはかま匂ひにむすふ露にまかいて

谷 0234　松下遂涼
内 0228　六條宮〈後中書王〉
谷 0234　松下逐涼
内 0228　六条宮
谷 0234　とこなつの花もわすれて秋かせをまつの陰にそけふはくれぬる
内 0228　とこなつの花もわすれて秋風を松のかけにそ今日はくれぬる

谷 0235　月前遂涼
内 0229　俊頼
谷 0235　月前逐
内 0229　俊頼朝臣
谷 0235　しはつ山ならのわか葉にもる月のかけさゆるまて夜はふけにけり
内 0229　しはつ山ならのわか葉にもる月のかけさゆるまてよはふけにけり

としは数へも―年はかすえも
（としはか末のイ【傍】）
【宮】
※歌題・作者二回書く。丁
のオからウに移る所。

萩―荻【宮】

題ナシ【宮】

※歌題の下
夜と―夜を【宮】
はこの―この【宮】

夜―花【宮】

谷　［送］
内　送

谷　0236　見花送日　〈橘〉為通〈監物〉
内　0237　見花送日　橘為通〈監物〉
内　0230　打聞
谷　0236　春ことにさきぬちりぬと花を□て身のいたつらにおひにける哉
内　0230　春ことにさきぬちりぬと花を見て身のいたつらに老にけるかな

谷　0237　風送菊香　新院御製
内　0237　このころはまかきの菊にかせふれて宿のあるしの袖かほる也

谷　0238　菊送多秋　仁和寺左府
内　0231　菊多秋　花園左大臣
谷　0238　露むすふ秋のかすみのかさならはいくへかさかむしら菊のはな
内　0231　露むすふ秋のかすのみかさならはいくへかさかん白菊の花

谷　0239　嵐送山葉　俊頼
内　0232　嵐送山葉　俊頼朝臣
谷　0239　もる山のあらしのつてにもみち葉をたれおもはすにみて忍ふらん
内　0232　もる山の嵐のつてにもみち葉をたれおもはすにみてしのふらん

谷　［漸］
内　漸

谷　0240　花漸　殿下
内　0233　花漸少　関白
内　0233　堀川院中宮哥合
内　0240　ひとりつゝ木すゑ青葉に成はてゝしつえに残る花ひとふさ
谷　0233　日をへつゝ梢あをはになりはてゝしつえにのこる花は一ふさ

谷　0241　同　大相國

※歌題の下
□―み【宮】

かすみの―かすのみ【宮】

花漸少【宮】
※歌のあと
ひとり―ひとつ【宮】
花―花は【宮】

谷 0241 けふも又ちりにけらしな桜はなあすは青葉になりやはてなん

内谷 0242 無
内谷 0242 遠草漸滋
内谷 0242 遠草漸滋 無名
内谷 0242 しかうつくなりもゆくまてきゝす鳴かたのゝをのゝ萩のやけはら
内谷 0242 しかうへそなりもゆく哉雉子鳴かたのゝみのゝ萩やけ原

谷 0243 林葉漸紅
内谷 0243 林葉漸紅 匡房卿
内谷 0243 時雨するいはたのをかのはゝそ原あさな〳〵に色かはりゆく
内谷 0243 時雨するいはたのをかのはゝそ原あさな〳〵に色かはりゆく

内谷 [稀〈希〉]
[稀〈希〉]

谷 0244 郭公聲稀
内谷 0244 郭公聲稀 公實卿
内谷 0244 郭公聲稀 三条大納言
内谷 0244 み山いつるはつねきしより時鳥いくかといふにこよひなくらむ
内谷 0244 み山いつる初ねきゝしより時鳥いくかといふにこよひ鳴らん

内谷 0245 杜鵑猶稀 〈藤〉 隆經 〈前美濃守〉
内谷 0245 郭公猶稀 隆經
内谷 0245 いつよりもうつきなかひくとしなれは猶ほとゝきすしのひねそなく
内谷 0245 つねよりも卯月なかひく年なれは猶時鳥しのひねそなく

谷 0246 稀聞時鳥
内谷 0246 希聞郭公 顕季卿
内谷 0246 時鳥やそ山までにたつねきてたゝ一聲はきくへきものを
内谷 0246 時鳥やそ山までにたつねきてたゝ一聲はきくへき物か

谷 0247 花落客稀 〈源〉 經仲 〈皇太后宮権亮〉
内谷 0247 花落客稀 源經仲
内谷 0247 しる知らす花のさかりはこし人のかれ〳〵にのみいまはなる哉
内谷 0247 しりしらす花のさかりはこし人のかれ〳〵にのみいまはなる哉

つくーつ（ヘイ【傍】）く【宮】 まてーかな【宮】
萩ーおき【宮】

をかー小野【宮】

きしーきく【宮】

杜鵑ー時鳥【宮】
ひくー本ノマヽ【傍】
そーに【傍】

谷 0248 山家人稀 伊勢大輔
内 0248 山家人稀 伊勢大輔
谷 0240 人めさへさひしき冬の山里におとろかすとやあられふるらむ
内 0240 人目たえさひしき冬の山里にをとろかすとや嵐ふくらん

さへ―たへ【三】

谷 残
内 残

谷 0249 残花誰家 俊頼
内 0241 残花誰家 俊頼朝臣
谷 0249 おほつかなわかふるさとのはななれは吹かせにさへしられさるらむ
内 0241 おほつかなたかふるさとの花なれはふく風にさへしられさるらん

谷 0250 残花薫風 〈源〉右府〈右大将雅定〉
内 0242 残花薫風 右大臣
谷 0250 ちりはてぬ花のありかをしらすれはいとひしかせそけふは嬉しき
内 0242 ちりはてぬ花のありかをしらすれはいとひし風そけふはうれしき

谷 0251 関路残花 俊頼
内 0243 関路残花 俊頼朝臣
谷 0251 さもこそはなこそのせきのかたからめ桜をさへもとゝめけるかな
内 0243 さもこそはなこその関のかたからめ桜をさへもとゝめける哉

谷 0252 山家春残 俊綱
内 0244 山家春残 俊綱
谷 0252 名残なくちりてわかれし桜はなまた山里はさかりなりけり
内 0244 なこりなくちりてわかれし桜花また山里はさかりなりけり

春残―残春【宮】

谷 0253 尋残紅葉 四條宮下野
内 0245 尋残紅葉 四条宮下野
谷 0253 良
内 0245 こゝろして風ののこせる紅葉ゝを尋ぬる山のかひに見るかな
谷 0253 心ありて風のゝこせる紅葉をたつぬる山のかひにみるかな

※歌題の下

谷 [不残]
内 不残

谷 0254 林葉不残 新院御製
内 0246 林葉不残 新院御製
谷 0254 はゝそ原ちりての後の月なれは冬はこかけもさやけかりけり
内 0246 柞原ちりてのゝちの月なれは冬は木かけもさやけかりけり

谷 0255 見花延齢 顕季
内 0247 見花延齢 顕季卿
谷 0255 なかむれはおのゝえさへそくちぬへきはなこそ千代のためしなりけれ
内 0247 詠れはをのゝえさへそくちぬへき花こそ千代のためし成けれ

谷 0256 松樹増色 行宗卿
内 0256 松の色をこそにことしはまされりとちよをかそへて君そみるへき

谷 0257 雨増野色 伯母
内 0248 雨増野色 康資王母
谷 0257 みとりなる野への色ます雨にこそ春の日数のふるもしるけれ
内 0248 みとりなる堅邊に色ます雨にこそ春の日数のふるもしらるれ

谷 0258 月増恋 仁和寺左府
内 0249 月増戀 花宛左大臣
谷 0258 金
内 0249 いとゝしくおもかけにたつこよひかな月を見よともちきらさりしに
谷 0258 いとゝしくおもかけにたつこよひ哉月をみよともちきらさりしに
内 0249

谷 [延]
内 延

谷 [増]
内 増

谷 [添]
内 添

〈大宮女房〉伯母【宮】
野への一のへに【宮】

※歌題の下

谷 0259 顕輔卿
内 0259 暁添虫聲 顕輔卿
谷 0259 暁添虫聲
内 0259 むしのねも秋の日数やおしむらんありあけかたはもろこゑになく
谷 0260 虫聲添恋 殿下
内 0260 むしのねも秋の日数やおしむらん有明かたはもろ聲になく
谷 0260 虫聲添戀 関白
内 0260 きくからに露けさまさるさよ衣すそのゝを野のまつむしのこゑ
谷 0261
内 0261 きくからに露けさまさるさよ衣すそのゝをのゝ松虫のこゑ

顕輔【宮】

谷 [副]
内 副

谷 0261 瞿麦副垣
内 0262 瞿麦副墻 俊頼
谷 0262 俊頼朝臣
内 0261 かきねにはむくらの露もしけからんすこしをちのけやまとなてしこ
谷 0262
内 0252 かきねにはむくらの露もしけからめすこし立のけやまとなてしこ

をち―たち【宮】

谷 [夷]
内 夾

谷 0262 卯花夾路
内 0262 卯花夾路
谷 0253 新院御製
内 0253 卯花のこなたかなたにさきぬれはいとゝそせはきをのゝほそみち
谷 0262 新院御製
内 0262 卯花のこなたあなたに咲ぬれはいとゝそほそきをのゝほそみち
谷 0263 瞿麦夾水 〈源〉仲正
内 0263 瞿麦夾水 源仲正
谷 0254 夏草のした行水にわけられてふたかたにさくやまとなてしこ
内 0263 夏草のしたゆく水にわけられてふたかたにさくやまとなてしこ
谷 0254

谷 [廻〈繞〉]
内 廻 繞

谷 0264 春駒廻澤 同
内 0255 春駒廻澤 源仲正

谷 0264 はみやよきさはのぬなはにつなかれてみきははなれぬるつるふちの駒
内 0255 はみかよきさはのぬなはにつなかれて汀はなれぬつるふちの駒　公実卿　三条大納言　ぬる―ぬ【宮】

谷 0265 卯花繞簾
内 0256 卯花繞簷
谷 0265 山里はかやのかりふきのきをなみひまやは見ゆるさける卯のはな
内 0256 山さとはかやのかりふきのき□なみひまやはみゆるさける卯花　山里は―山さとの【宮】

谷 0266 秋花廻水
内 0257 秋花廻水
谷 0266 池水をかゝみとや見るをみなへしはきのにしきをおりたてにして
内 0257 池水をかゝみとやみるをみなへし萩のにしきをゝりたてにして　源縁法師　源縁

谷 0267 同
内 0258 同
谷 0267 秋の野をうつせる宿の池水はきしのまゝにそ花はにほへる
内 0258 秋のゝをうつせはやとの池水はきしのまゝにそ花はにほへる　國基　國基

谷 0268 同
内 0259 同
谷 0268 已上同座
内 0259 已上同座　成元　橘成元

谷 0269 落葉繞樹
内 0260 落葉繞樹
谷 0269 たちよらんかたこそなけれをみなへし堅なかのし水結ふはかりそ
内 0260 たちよらむかたこそなけれ女良花堅中のし水むてふはかりに　家經　家經　※歌のあとはかりそ―はかりに【宮】むゞてふ―す【傍】

谷 0270 かせをいたみもみちちりしくこのもとにかへらん方もわすられにけり
内 0261 風をいたみ紅葉おりしく木の本に帰らん事もわすられにけり

谷 [連]
内 連

内 0261 金　卯花連垣　卯花連墻　匡房卿　匡房　匡房【宮】※歌題の下

谷 0270 いつれをかわきてとはまし山かつの垣ねつゝきにさける卯はな
内 0261 いつれをかわきてとはまし山かつのかきねつゝきにさける卯花

谷 0271 連夜見月　頼家
内 0262 連夜見　頼家

内 0262 後
谷 0271 しきたへの枕のちりや□つるらん月のさかりはいこそねられね
内 0262 しきたへの枕のちりやつもるらん月のさかりはいこそねられね

谷 0272 同　殿下
内 0263 同　関白

谷 0272 年をへてなかめぬ夜半はなけれとも月はふりせぬ物にそ有ける
内 0263 年をへて詠ぬよはゝなけれとも月はふりせぬ物にそ有ける

谷 0273 同　行盛
内 0264 行盛

内 0264 已上三首同座
谷 0273 よひのまのかたわれ月と見そめしをなかめてあかす有明のそら
内 0264 よひのまのかたわれ月とみそめしを詠めそあかぬ在明の月

谷 0274 同
内 0274

谷 0274 山かつのねりそもてゆふたけの戸をいくよかさして月をみるらん
内 0274

谷 [礙]
内 礙　障

谷 0275 庭樹障日　顕季
内 0265 庭樹礙日　顕季卿

谷 0275 みな月のてる日といへとわかやとのならのはかけはすゝしかりけり
内 0265 みな月のてる日といへと我宿のならの葉かけは涼しかりけり

谷 0276 障本夫恋　俊頼
内 0266 障本夫戀　俊頼

※歌題の下
□つる―積る【宮】つる【三】

※歌のあと
そら―つき【宮】

日―如本【傍】

障―障歟【傍】

谷 0276 手枕をくけてゝくれはおそろしみはやはひましねみつのかとより
内 0266 たまくらをぬけてゝくれはおそろしみはやいてましねみつのかとより　くれ―みれ【宮】　おそろしみはやはひ―おそろしやみはひ【宮】

谷 [隔]
内 隔

谷 0277 霞隔山　兼澄
内 0267 霞隔山　源兼澄
谷 0277 ゆきかよひ花に心はをかねとも春のかすみはなをへたてけり
内 0267 ゆきかよふ花に心はわかねとも春に霞はなをへたてけり

谷 0278 霞隔山家　嘉言
内 0268 霞隔山家　嘉言
内 0268 拾
谷 0278 山さとの家居はかすみこめたれと垣ねの柳すゑ葉とそみゆ
内 0268 山さとのいへゐは霞こめたれと　※歌題の下とそ―そと【宮】

谷 0279 霞隔山樹　同
内 0269 〃〃山樹　同
谷 0279 よしの山ふりつむ雪のきえせねはこそをへたつるかすみ成けり
内 0269 吉堅山ふりにし雪のきえせぬはこそをたつぬる霞なりけり

谷 0280 霞隔山花　良暹
内 0270 〃〃山花　良暹
谷 0280 たなひけはにほひも見えす山桜みねよりをちに霞たゝなん
内 0270 たなひけはにほひもみえす山桜嶺よりをちに霞たゝなん

谷 0281 霞隔残花　肥後
内 0271 〃〃残花　肥後
谷 0281 たちかくすかすみそつらき山さくら風たにのこす春のかたみを
内 0271 たちかくす霞そつらき山桜風たにのこす花のかたみを

谷 0282 隔霞聞鶯　新院御製
内 0282 宮古にはまたさとなれぬうくひすのかすみこゝにそ初ねきゝつる　こゝ―こし【宮】

谷 0283 藤花隔垣 仁和寺左府越後
内 0272 藤花隔墻 越後〈花薗左大臣女房〉
谷 0283 あしかきのほかとは見れと藤のはなにほひはわれをへたてさりけり
内 0272 あしかきの外とは見れと藤の花匂は我をへたてさりけり

谷 0284 卯花隔隣 俊頼
内 0273 卯花隔隣 俊頼
谷 0284 卯花の垣ねはかりそもろともにかよふ心はへたてさりける
内 0273 卯花のかきねはかりそもろともにかよふ心はへたてなけれは

谷 0285 隔夜郭公 殿下
内 0275 隔夜郭公 同
谷 0285 このくれにきなかさりせは時鳥ふたよときかぬ身とやならましけるーけり【宮】
内 0275 この暮にきなかさりせは郭公二よときかぬみとやならまし

谷 0286 水草隔船 同
内 0274 水草隔船 関白
谷 0286 夏ふかみたまえにしけるあしの葉のそよくや舟のかよふなるらん
内 0274 夏ふかみ玉江にしけるあしのはのそよくや船のかよふなるらん

谷 0287 隔水見花 元輔
内 0276 隔浪見花 元輔
谷 0287 岸ちかみ波のへたつるはなの色はおりてよるこそ見るほともせめ
内 0276 岸ちかみ浪のへたつる花の色はおりてたにこそみる程にせめ色は一色【宮】 ほともー程に【宮】

谷 0288 同 良暹
内 0288 なけきつゝ川のこなたにすくるかな花みにわたるせをししらねは

谷 0289 秋霧隔水 俊頼
内 0277 秋霧隔水 俊頼
谷 0289 をとはかはきりのほかなるたきならはいはもるたまのかすは見てまし見てー見え【宮】
内 0277 をとは河きりのほかなる瀧ならは岩もる玉の数はみてまし

谷 0290 霧隔女郎
内 0278 霧隔女郎
谷 0290 同
内 0278 をみなへしうちたれかみを夕霧にかくしてたれてしほれそすらん
女良花うちたれかみをゆふきりにかくれてたれとしほれふすらん

谷 0291 垣隔紅葉 仲實
内 0279 墻隔紅葉 仲實
谷 0291 金
内 0279 もすのゐるはしのたちえの薄もみちたれわかそのゝ物と見るらん
鵙のゐるはしのたちえのうす紅葉たれわかそのゝものとみるらん

谷 0292 隔遠路恋 殿下
内 0280 隔遠路恋 関白
谷 0292 はるけさにいそきもたゝぬあつまちのこひの涙そまつくたりける
内 0280 はるけさにいそきもたゝぬあつまちを恋の涙のまつ

谷 0293 雲隔遠望 俊頼
内 0281 雲隔遠望 俊頼
谷 0293 とをちには夕立すらしひさかたのあまのかこ山雲かくれゆく
内 0281 とをちには夕たちすらし久方のあまのかく山雲かくれゆく

谷 籠
内 籠

谷 0294 霧籠紅葉 〈藤〉資仲卿〈中納言〉
内 0282 霧籠紅葉 資仲
谷 0294 もみちちる山は秋霧はれせねはたつたの河のなかれとそみる
内 0282 紅葉ちる山は秋きりたえせはたつたの河をなかれにそみる

谷 0295 杰霧籠路 良暹
内 0283 秋霧籠路 良暹
谷 0295 良
内 0283 行すゑも見えぬ道かな霧こめてちとりのなくは河邊なるへし
ゆくすゑもみえぬみち哉きりこめて千鳥のなくは川へなるへし

たれてーたれてと【宮】
そーふ【宮】

※歌題の下

隔遠路【宮】

とそーそと【宮】

※歌題の下
へしーらし【宮】

谷 0296 梅花籠雪 重如
内谷 0296 梅のはなにほひたなくは枝見えす降つむ雪をいかてしらまし

谷 ［蔵〈隠〉］
内 蔵 隠

谷 0297 款冬蔵橋 顕季
内谷 0284 款冬蔵橋 顕季
0297 かよひこしゐての岩橋たとるまてところもさらすさける山ふき
内谷 0284 かよひこしゐての岩橋たとるまて所もさらすさける山吹

谷 0298 紫藤籠松 良暹
内谷 0285 紫藤蔵松 良暹
0298 金
内谷 0285 松風のをとせさりせは藤なみをなにゝかゝれる花としらまし
内谷 0298 松風のをとせさりせは藤浪をなにゝかゝれる花としらまし
内谷 0285

谷 0299 秋花籠路 経信
内谷 0286 秋花蔵路 経信
0299 しら露にたえす秋はきおれふしてしけかるをのゝ道たにもなし
内谷 0286 白露にたえす秋萩おれふしてしはかるをのゝかけたにもなし

谷 0300 落葉籠路 清成法橋
内谷 0287 落葉蔵路 清成法橋
0287 後
内谷 0300 紅葉ちる秋の山へはしらかしのしたはかりこそみちは見えけれ
内谷 0287 もみちゝる炉の山邊はしらかしのしたはかりこそ道は見えけれ

谷 0301 雪蔵帰路 成助
内谷 0288 雪蔵帰路 賀茂助成
0301 さと人にとひてかへらんこの程にこしちも見えす雪ふりにけり
内谷 0288 さと人にとひてかへらんよの程にこしちもみえす雪ふりにけり

※歌題の下

しけかる―しけれる【宮】

※歌題の下

谷 0302 雪隠遠樹 〈藤〉堀川右府〈頼宗〉
内 0289 雪隠遠樹 堀川左大臣
谷 0302 いかはかり降つむ山の雪なれは木すゑをふみて人のゆく覧
内 0289 いかはかりふりつむ山の雪なれは梢をふみて人のゆくらん

谷 0290 霜隠家 永成法師
内 0290 しとろなるのきも□たちにをく霜はあれたるやとのおもかくれかな

谷 [埋]
内 掩 埋

谷 0291 花掩澗水 藤原隆方
内 0291 ちる花のいはまの波をこめつれは山下水のをともせぬ哉

谷 0292 同 頼家
内 0292 山さとのみくさと花はなりにけりのこるいかて人にいらせし

谷 0303 花埋谷水 仁和寺左府
内 0293 花埋谷水 花宛左大臣
谷 0303 山かせにちりつむ花のなかれすはいかてしらまし谷のした水
内 0293 やま里にちりつむ花のなかれすはいかてしらまし谷のした水

谷 0304 落花埋橋 無
内 0294 落花埋橋 無名
谷 0304 くれてゆく春やこれより過つらん花ちりつもる青柳の糸
内 0294 くれゆく春やこれより過つらん花ちりつもるあをやきのはし

谷 0305 落葉埋橋 顕季
内 0295 落葉埋橋 顕季
金

※歌題の下

谷 0305 をくら山みねのあらしの吹からに谷のかけはしもみちしにけり
内 0295 をくら山みねの嵐の吹からに谷のかけはし紅葉しにけり

谷 0306 落葉埋菊　家經
内 0296 落葉埋菊　家經
谷 0306 紅葉はのほかよりたかくつもれるや菊のさけりしところなるらん
内 0296 もみち葉のほかよりたかくつもれるや菊のさけりし所なるらん

谷 0307 霜埋落葉
内 0297 霜埋落葉　無
谷 0297 後
内 0297 おちつもるよはの木の葉をよの程にはらひてけりとみゆる朝しも　無
谷 0307 おちつもる庭の木葉を夜の程にはらひてけりとみする朝霜　無名
内 0297

谷 0308 雪埋古橋　公実
内 0298 雪埋古橋　三条大納言
谷 0308 あさ霧や雪もつもりぬあつまちにさのゝ舟橋誰にとはまし
内 0298 あまきりあひ雪はくたりぬあつまちにさのゝふる橋誰にとはまし

谷 0309 雪埋行路
内 0299 雪埋行路　隆資
谷 0309 行まゝに雪ふりぬれはあさゆふにかよひならへる道もまとひぬ
内 0299 ゆくまゝに雪ふりぬれは朝夕にかよひなれたる道もまとひぬ

谷 [満]
内 満

谷 0310 落花滿山路　赤染
内 0300 落花滿山路　赤染
谷 0310 ふめはありふまねはゆかむかたもなし心つくしの山さくらかな
内 0300 ふめはおしふまねはゆかんかたもなし心つくしの山桜かな

谷 0311 落花滿庭　内府
内 0301 落花滿庭　内大臣
谷 0311 けさ見れは夜はのあらしにちりはてゝ庭こそはなのさかり成けれ
内 0301 けさみれはよはの嵐はてゝ庭こそ花のさかり成けれ

家經―家隆【宮】

※歌題の下

あさ霧や―あま霧あひ【宮】
あつまちに―あつまちや（の【傍】）【宮】

あり―をし【宮】

谷 0312 同 仁和寺左府
内 0302 同 花菟左大臣
谷 0312 庭もせにつもれる雪も見えなからにほふそ花のしるし成ける
内 0302 庭もせにつもれる雪とみえなから匂ふそ花のしるしなりける

谷 0313 同 俊頼
内 0303 同 俊頼朝臣
谷 0313 はく人もなきふるさとの庭のおもは花ちりてこそ見るへかりけれ
内 0303 はく人もなき故郷の庭のおもは花ちりてこそ見るへかりけれ

谷 0314 瞿麦滿庭 顕季
内 0304 瞿麦滿庭 顕季
谷 0314 わか宿は庭もまかきもをしなへて今さかりなるなてしこのはな
内 0304 我里は庭のまかきもをしなへていまさかりなりなてしこの花

谷 0315 菊滿庭 六条右府〈顕房〉
内 0305 菊滿庭 六條右大臣
谷 0315 しらきくのみたれてさける庭のおもは月のひかりそいとゝさやけき
内 0305 白菊のみたれてさける庭のおもは月の光そいとゝ露けき

谷 0316 同 頼家
内 0306 同 頼家
谷 0316 あさ霜のをける庭かと見えつるはみなしらきくの花にそ有ける
内 0306 あさ霜ののをける庭かとみえつるはみな白菊の花にそ有ける

谷 0317 同 清家
内 0307 同 藤清家
谷 0317 以上同座
内 0307 さかりにも庭の白菊見ゆるかな一枝おらんみちしなきまて
谷 0317 さかりにも庭の白菊みゆる哉一枝おらむ道もなきまて

谷 0318 紅葉滿水 範永
内 0308 紅葉滿水 範永
谷 0318 おほ井河ちるもみち葉にてらされてをくらの山のかけもうつらす
内 0308 おほ井川ちるもみち葉にてらされてをくらの山のかけもうつらす

雪も―雪と【宮】

〈源〉六条右府〈顕房〉
【宮】
おもは―おもに【宮】

※次歌題「滿水」の右下

谷 0319 落葉滿水 顯季
内 0309 落葉滿水 顯季
谷 0319 大井川いせきのをとのなかりせは紅葉をしける渡りとやみん
内 0309 大井川ゐせきのをとのなかりせはもみちをしけるわたりとやみん

谷 0320 落葉滿流 家經
内 0310 落葉滿流 家經
谷 0320 たかせ舟しふくはかりにもみち葉のなかれてくたるおほ井川哉
内 0310 高瀬船しふくはかりに紅葉はのなかれてくたる大井河かな

谷 0321 落葉滿網代 俊頼
内 0311 落葉滿網代 俊頼朝臣
谷 0321 太山には嵐ふくらしあしろ木にかきあへぬまて紅葉つもれり
内 0311 太山には嵐ふくらしあしろ木にかきあへぬまて紅葉つもれり

谷 0322 水滿池水 同
内 0313 氷滿池水 俊頼
谷 0322 けふ見れはみはらの池につらゝゐてあちのむら鳥ひまもとむらし
内 0313 けふよりはみはらの池につらゝゐてあちの村鳥ひまもとむらし

谷 0323 水滿池上 經信
内 0312 氷滿池上 經信
谷 0323 水鳥のつらゝの枕ひまもなしむへさえけらしとふのすかこも
内 0312 水鳥のつらゝの枕ひまもなしむへさえけらしとふのすかこも

谷 [滋]
内 滋 繁

谷 0324 遠草漸滋 無
内 0324 しかすへくなりも行かなきゝすなくかたのゝをのゝおきの焼原

谷 0325 野望草滋

落葉滿水―同【宮】

＊水滿―氷カ【傍】 水滿―氷滿【宮】【三】 らし―也【宮】

＊水滿―氷カ【傍】 水滿―氷滿【宮】

しかす―しかう【宮】

内谷 0325 むさし堅のあしのをきくと分ゆけは葉すゑよりこそ空はみえけれ

をきくと―おきゝと（ゝと―ふをイ【傍】）【宮】　けれ―けり【宮】

谷 0326 野草露滋
内谷 0314 野望草滋　殿下
内谷 0326 関白
内谷 0314 いかはかりをきあまりてか夏草のしけみのをのに露のこほるゝ
内谷 0314 いかはかりおひあまりてか夏草のしけみのをのに露のこほるゝ

谷 0327 同
内谷 0315 野花露滋　顕季
内谷 0327 顕季
内谷 0315 うつらなくあたのとをのゝまくすはらいくよの露にむすほれぬらん
内谷 0315 うつらなくあたのおほのゝまくす原いくよの露にむすほれぬらん

むすほれ―むすはれ【宮】

内谷 重 [重]

谷 0328 草花露重
内谷 0316 草花露重　俊頼
内谷 0328 俊頼
内谷 0316 秋はきもつゆのしからみかけつれはいくしほ庭をそめかへすらん
内谷 0316 秋萩も露のしからみかけつれはいくしほにかをそめかけつらん

内谷 帯 [帯]

谷 0329 敦叙〈民部大輔〉
内谷 0317 梅花帯雪　藤原敦釼〈民部大夫〉
内谷 0317 梅花帯雪
内谷 0329 丁聞
内谷 0317 しら雪のきえぬかきりは梅のはなかはかりをこそしるへかりけれ
内谷 0317 白雪のきえぬかきりは梅の花香はかりをこそしるへかりけれ

輔―夫【三】

※歌題の下

谷 0330 瞿麦帯露
内谷 0318 瞿麦帯露　俊頼
内谷 0330 俊頼
内谷 0318 朝露のをきゐる庭のとこにしき誰か敷しまのやまとなてしこ
内谷 0318 あさ露のおきゐにゝはのとこにしきたかしきしまのやまとなてしこ

谷 0331 野草帯露 贈左大臣
内 0319 堅草帯露 贈左大臣
谷 0319 金
内 0319 真葛はらあたのおほのゝしら露は吹なはらひそ秋の初風
内 0319 まくす原あたのおほのゝ白露を吹なはらひそ秋の初風

※歌題の下

谷 0332 堅花帯露 肥後
内 0320 堅花帯露 肥後
谷 0320 しらつゆと人はいへとも堅へ見れはをく花毎に色そかはれる
内 0320 白露と人はいへとも堅へみれはをく花ことに色そかはれる

谷 0321 烋花帯露開 元輔
内 0321 ほころひて花さきにけり藤はかま匂ひにむすへ露にまかせて

谷 0322 野菊帯霜 俊頼
内 0322 残菊帯霜 俊頼
谷 0322 はつ霜のをきのこしたる白菊の露やぬすみにうつろはすらん
内 0322 初霜のをきのこしたる白菊を露やぬすみにうつろひはすらん

谷 0323 花色映月 經章
内 0323 花色映月 平經章
谷 0324 山桜枝に□まれる月かけを花のひかりとおもひけるかな
内 0324 山桜枝にとまれる月かけを花の光とおもひけるかな

□まれる—とまれる【宮】

谷 0325 月光映露 成助
内 0325 月光映露 賀茂成助
谷 0325 をさゝはら露にうつれる月影を吹うこかすな夜はの秋風
内 0325 をさゝ原露にうつれる月かけを吹うこかすな夜はの烋風

な—る【宮】

谷 0326 月光映水 俊頼
内 0326 月光映氷 俊頼

谷 0334
内 0334
谷 0335
内 0335

[映]
谷 映
内 映

谷 0336 池水にかよひてかけのすみぬれは氷を月のつまとみるかな
内 0325 池水にかよひてかけのすみぬれは氷を月のつまとみる哉

谷 0337 菊花映霜 同
内 0326 菊花映霜 同人
谷 0337 八重をける霜のしたなる白菊の葉をさへ花と思ひける哉
内 0326 やへをける霜のしたなる白菊の葉をさへ花と思ひける哉

谷 [瀉]
内 寫

谷 0338 氷花影瀉 康資王母
内 0328 花影写水 康資王母
谷 0338 しからみをかけてとゝめむ花のかけうつれる水は外にちらさし
内 0328 しからみをかけてとゝめむ花のかけうつれる水は外にちらさし

谷 0339 花影瀉水 資仲卿
内 0329 同 資仲
谷 0339 良
内 0329 水に移る影のなかるゝものならはすゑくむ人も花はみてまし
谷 0339 水にうつるかけのなかるゝ物ならはうへゆく人も花はみてまし
内 0329

谷 0340 花瀉池水 顕季
内 0327 花写池水 顕季
谷 0340 白波のたつかとそみる池水にしつえをひてゝさけるさくらは
内 0327 白浪のたつかとそみる池水にしつえをひてゝさけるさくらは

谷 0341 穉花瀉水 經衡
内 0330 秋花寫水 經衡
谷 0341 花すゝきみきはにまねくかけをみてむへこそ波はたちよりにけれ
内 0330 花すゝき汀にまねくかけをみてうへこそ波はたちよりにけれ

谷 0342 樹陰瀉水 殿下
内 0331 樹陰写水 関白
谷 0342 松陰を汀の波にうつもれてうこかぬ枝もうこくとそみる
内 0331 松かけを汀の波にうつしもてうこかぬ枝をうこくとそみる

八重―やゝ【宮】

水花影瀉〈勅撰一字抄花影瀉水〉【宮】 氷―水【三】

※歌題の下

うつもれて―うつしもて【宮】

谷 0343 山陰鴻水
内 0332 山影写水 顕季
谷 0343 亀山のかけをうつしておほ井河いくよまてにかとしのへぬらん
内 0332 かめ山のかけをうつして大井河いくよまてにか年のへぬらん

谷 0344 燭影浮水
内 0333 燭影浮水 兼澄
谷 0344 七月七日詠之
内 0333 ともし火のうかへる池の底きよみ織女つめのゆきゝをそみる
谷 0344 ともし火のうかへる池のそこきよみ七夕つめのゆきゝをそみる
内 0333

谷 0345 松陰浮水
内 0334 松影浮水 経信卿
谷 0345 千とせふるかけをそ見つる池水の波折かくる松のしつえに
内 0334 ちとせふるかけをそみつる池水の波おりかくる松のしつえに

谷 0335 春花浮水
内 0335 みとりなる河邊の柳かけさせは水にも春の色そみえける 國基

谷 0346 藤花浮水
内 0336 落花浮水 雅兼卿
谷 0346 花さそふ嵐やみねをわたるらんさくらなみよる玉川の水
内 0336 花さそふ嵐や岑をわたるらん桜なみよる谷河の水

谷 0347 萩花浮水
内 0337 萩花浮水 匡房卿
谷 0347 岸ちかみしかのしからみかくれはやうきてなかれぬ秋萩の花
内 0337 岸ちかみしかのしからみかくれはやうきてなかれぬ秋萩の花

谷 0348 菊花浮水
内 0338 菊花浮水 範永

[浮]
谷
内 浮

陰―影【宮】
としの―としを【宮】

※歌題の下に割書き

経信卿―経信【三】

谷 0348 さきぬれは菊は水にもうつりけりうへけむ人はかけたにもなし
内 0338 さきぬれは菊は水にもうつりけりうへけん人は跡たになし

谷 0349 紅葉浮水 経信卿
内 0339 紅葉浮水 経信
谷 0349 嵐ふく山のあなたのもみち葉をとなせの瀧におとしてそみる
内 0339 嵐ふく山のあなたの紅葉〃をとなせの川になかしてそみる

谷 0350 落葉浮水 経衡
内 0340 落葉浮水 経則〈大炊允〉
谷 0350 なかれくる紅葉の色しふかけれはあさきせもなき白河の水
内 0340 なかれくるもみちの色のふかけれは浅きせもなし白河の水

谷 0351 落葉浮波 俊頼
内 0341 落葉浮水
谷 0351 みとせまて人もすさはぬにしき木と見しはあしろの木葉成けり
内 0341 みとせまて人もすさめぬにしきゝとみれはあしろの木葉成けり

谷 開
内 開

谷 0352 秋花夏開 経衡
内 0342 秋花夏開 経衡
谷 0352 秋はきは夏の堅へにそ咲けるやかてや鹿のしからみにせん
内 0342 妹萩は夏の堅へにそ咲けるなかてや鹿のしからみにせん

谷 0353 妹花開露 為義
内 0343 秋花開露 為義
谷 0353 しら露はおなし心にをくらめといろ〳〵見ゆるあきの堅へかな
内 0343 白露はおなし心にをくらめと色〳〵みゆる秋のゝへ哉

谷 落
内 落

谷 0354 梅花落水 俊頼
内 0344 梅花落水 俊頼

すさはぬ—すさめぬ【宮】
【三】

谷 0354 ちりつもる花こそいはによとむとも香はなかれやせにかはるらん
内 0344 ちりつもる花こそ岩によとむとも香はなかれてやせにかほるらん

なかれや―なかれてや【宮】

谷 0355 花落晩風 匡房
内 0345 落花晩風 匡房 夕くれの花ちりつめる春かせはたもとさひしき物にそありける
谷 0355 夕暮の花をつゝめる春風はたもとさひしき物にそありける
内 0345

つめる―つもる【宮】

谷 0356 葉落月明 國房
内 0346 葉落月明 国房 月見るそうれしかりけるわかやとのそとものこたち常盤ならねは
谷 0356 月みるそうれしかりける我宿のそともの木かけときはならねは
内 0346

谷 [未落]
内 未落 鮮

谷 0357 山花未落 經信卿
内 0347 山花未落 經信 うらみしな山のはかけの山さくらをそくさく咲ともをそくちりけり
谷 0357 恨しな山のはかけの山さくらをそくさけともをそくちりけり
内 0347

谷 0358 同 師賢
内 0348 已上俊綱會 師賢 さはりとて見る空もなし色かへぬときはの山の花にしあらねは
谷 0358 さかりとてみる空もなし色かへぬときはの山の花にあらねは
内 0348

※歌のあと

谷 [鮮]
内 鮮

谷 0359 秋花露置鮮 兼澄
内 0349 妹花露置鮮 兼澄 いろ〳〵にうすくもこくもをきわくる露とはなとのなかそゆかしき
谷 0359 色〳〵にうすくもこくもをきわくる露と花とのとかそゆかしき
内 0349

谷
内

［散］
散

谷 0360
内 0350 落花散衣 藤永實 永定
谷 0360 ちりかゝるけしきは雪のこゝちして花には袖のぬれぬ成けり
内 0350 ちりかゝるけしきは雪の心ちして花には袖のぬれぬ也けり

谷
内

［靡］
靡

谷 0361 俊頼
内 0351 秋花靡風 萩花靡風 俊頼
谷 0361 をく露にしほるゝたにもあるものをたえなる萩に秋かせそふく
内 0351 をく露にしほるゝたにも有物をたへなる萩にあき風そふく

谷
内

［随］
随

谷 0362 白河院御製
内 0352 柳糸随風 白河院御製
谷 0362 かせふけは柳のいとのかたよりになひくにつけて過る春かな
内 0352 風ふけは柳のいとのかたよりになひくにつけて過る春哉

谷 0363 〈源〉時綱
内 0353 花香随風 源滿綱
谷 0363 いつかたの花のにほひとしらぬかな吹くるかせのさためなけれは
内 0353 ※一行空白

谷 0364 〈藤〉宗頼卿〈中納言〉
内 0354 随風尋花 定頼
谷 0364 吹かせをいとひもはてしちり残る花のしるしとけふは成けり
内 0354 ふく風をいとひもはてしちりのこる花のしるへにけふは成けり

谷 0365 〈橘〉元任〈散位〉
内 0355 落花随風 橘元任
落花随風 しるし―知へ【宮】

谷 0365 散つむみねこすかせのさそはすは山のあなたの花を見ましや　　散つむ―ちりつむと【宮】
内 0355 ちりしくと峯こす風のさそはすは山のあなたの花をみましや　　俊頼

谷 0366 堅花随風
内 0356 堅花随風　　俊頼
谷 0366 かくはかりはけしき野への秋風におれしらすまふをみなへし哉
内 0356 かくはかりはけしきのへの秋風におれしとすまふ女郎花哉

谷 0367 菊花随風
内 0357 菊匂随風　　周防内侍
谷 0367 霧こめてまかきの菊は見えねともかせのにほひに程そしらるゝ
内 0357 きりこめて籬の菊は見えねとも風にゝほひの程そしらるゝ

谷 0368 落葉随風
内 0358 落葉随風　　俊頼
谷 0368 朋のはけしきうれにおり〳〵てけふしももろき紅葉をそみる　　ら―と【宮】
内 0358 木枯のはけしきうれにおり〳〵て今日しももろき紅葉をそみる　　俊頼

谷 0359 草随地深
内 0359 草もみなたかきみしかきよ也けりあさち荻原ところわきして　　仲正

谷 [飛]
内 飛

谷 0369 花飛如雪
内 0360 花飛如雪　　〈藤〉有綱
谷 0360 打聞　　藤有綱
内 0369 しら菊に見えまかひつゝ散るはなはきえぬはかりそしるしなりけり
谷 0360 しら雪にみえまかひつゝちる花のきえぬ斗そしるし成けり　　〳〵て―〳〵に（てイ【傍】）【宮】

内 [乱]
谷 乱

※歌題の下
菊―ゆき【宮】　けり―ける【宮】

谷 0370 瀧水乱絲 〈大中臣〉輔弘〈散位〉
内 0360 瀧水乱絲 大中臣輔弘
谷 0370 みたれおつる糸とこそ見れ瀧つせはわく〳〵水のくれは成けり
内 0361 みたれおつるいとゝこそみれ瀧つせはわく〳〵水のくれは成けり

谷 0371 同 永源
内 0371 きよ水のこほりをわくる瀧のいとはいとゝよるこそむすほゝれけれ

谷 [薫]
内 薫

谷 0372 梅花薫衣 〈藤〉長房卿〈参議〉
内 0362 梅花夜薫 長房
谷 0372 金
内 0362 梅かえに風や吹らん春のよはおらぬ袖さへにほひぬるかな
谷 0372 梅か枝に風やふくらん春のよはおらぬ袖さへにほひぬるかな
内 0362

※歌題の下

谷 0373 花随風 殿下
内 0363 花薫風 関白
谷 0373 金
内 0363 芳野山峯のさくらやさきぬらん麓のさとに匂ふ春かせ
谷 0373 吉堅山みねのさくらや咲ぬらん麓の里にゝほふ春風
内 0363

※歌題の下

谷 0374 盧橘随風 顕季
内 0364 盧橘薫風 顕季
谷 0374 夕附夜はな立花に吹かせを誰か袖ふるとおもひけるかな
内 0364 夕つく夜花たちはなにふく風をたかふる袖と思ひけるかな

谷 0375 野花薫風 永源
内 0365 野花薫風 永源
谷 0375 いもきくや野へに秋かせふきぬれは花ににほはぬ人のなきかな
内 0365 いもきくや堅へに秋風吹ぬらん花にゝほはぬ人のなき哉

谷 0376 花落薫衣 行家
内 0366 落花薫風 行家
内 0366 良
谷 0376 ちりかゝるはなのたもと□にほふかなはるはすくとも衣かへせし
内 0366 ちりかゝる花のたもとにゝほふ哉春は過とも衣かへさし

谷 0377 堅花薫風 顕季
内 0367 堅花薫風 顕季
谷 0377 見れとあかぬとをりのをかのはきか花袖にうつれるかさへむつまし
内 0367 見れとあかぬとををのゝ萩か花空にうつれる香さへなつかし

谷 0378 菊花薫袖 堀河右府
内 0368 菊花薫袖 堀河右大臣
谷 0378 菊のはなおるうつり香をこよひしも袖に心を人やをくらむ
内 0369 菊の花おるうつりかをこよひしも袖に心を人やをくらん

谷 0379 残菊薫衣 俊頼
内 0368 残菊薫衣 俊頼
谷 0379 うつろへはいろをは霜のへたつれとかはわか袖のものにそありける
内 0368 うつろへは色をは霜のへたつれとかは我袖の物にそ有ける

谷 [芳〈香〉]
内 芳香馥

谷 0380 梅花夜芳 顕綱
内 0370 梅花夜芳 顕綱朝臣
谷 0380 後
内 0370 梅花かはりにほふ春のよのやみはかせこそうれしかりけれ
梅の花かはかり匂春のよのやみは風こそうれしかりけれ

谷 0381 菊花久薫 公実卿
内 0371 菊花久芳 三条大納言
谷 0381 色も香もひさしくにほふうつろはて八重かさなれる白菊のはな
内 0371 色もかもひさしくにほへうつろはてやへかさなれる白菊のはな

※歌題の下
□―も【宮】

とをり―とをか【宮】
はきか―はきの【三】

うつろへは―うつろへる
【宮】【三】

※歌題の下
かはり―かはか□【宮】

にほふ―にほへ【宮】

谷 内 [匂]

谷 0382 岸菊久匂
内 0372 堀川右府
岸菊久匂
堀河右大臣
をちこちのきくにかれせぬ菊の花幾よの秋にあはむとすらむ
をちこちの岸にかれせぬ菊花いく世の烋にあはんとすらん

谷 0383 同
内 0373 同
〈藤〉義忠〈大和守〉
義忠
なかれゆくすゑの世までにつきもせぬさしてにほへる岸の白きく
なかれゆくすゑの世までにつきもせすさしてにほへる岸の白きく

谷 内 [緑]

谷 0384 花落枝緑
内 0374 花落枝緑
良暹
良暹
木すゑには葉のみしけりて桜花庭のおもこそさかり成けれ
梢には葉のみしけりて桜花庭のおもこそさかり成けれ

谷 0385 庭樹久緑
内 0375 庭松久緑
公實
三条大納言
常盤なる松かさおほふ庭のおもは千とせのかけそさして見えける
ときなる松かさおほふ庭のおもは千年のかけそさしてみえける

谷 内 [紅]

谷 0386 林葉漸紅
内 0376 林葉漸紅
匡房
匡房
時雨つるいはたのをのゝはゝそはらあさな〳〵に色かはりゆく
時雨するいはたのをのゝはゝそ原あさな〳〵に色かはりけり

谷 内 [白]
白薄

せぬ—せす【宮】

おほふ—おもふ【宮】

つる—する【宮】

谷 0387 暁月白 〈藤〉實方〈陸奥守〉
内 0377 暁月白 實方
谷 0387 雪かとておきて見つれはあさほらけ色わきかたき秋の月かけ
内 0377 雪かとておきて見つれは朝ほらけ色わきかたき秋の月哉

谷 0378 遠山霞薄 國基
内 0378 春ふかく又かすみせは故郷のとをちの山をほのみましやは

谷 浅［浅］
内

谷 0388 紅葉猶浅 通俊卿
内 0379 紅葉猶浅 通俊
谷 0389 後いかなれはふなきの山のもみち葉の秋はすくれとこかれさるらん
内 0379 いかなれはふな木の山の紅葉はの秋はすくれとこかれさるらん

※歌題の下

谷 深［深］
内

谷 0389 深山花 殿下
内 0380 深山花 関白
谷 0389 峯つゝきにほふ桜をしるへにて知らぬ山路にかゝりぬる哉
内 0380 峯つゝきにほふ桜をたつぬとてしらぬ山路にかゝりぬる哉

谷 0390 深山櫻 俊頼
内 0381 〃〃桜 俊頼
谷 0390 山桜たにふところに木かくれよ風そよめきて花もとむなり
内 0381 山さくらにほふところに木かくれよ風そよめきてひまもとむなり

谷 0391 山深花残 基俊
内 0383 深山花残 基俊

谷 0391 岩ねのみかさなる山の桜はなわれをまつとやちりのこるらむ
内 0383 岩ねふみかさなる山の桜花われをまつとやちりてよるらん

谷 0392 山深紅葉残　時綱
内 0384 〃〃紅葉残　源時綱
谷 0392 人も見ぬ深山かくれのもみち葉はかせもやしらぬちらてのこれる
内 0384 人もみぬみ山かくれの紅葉はゝ風もやしらぬちらてのこれる

谷 0393 深山落花　仲実
内 0382 〃〃落花　仲実
谷 0393 のこりなく花ちりにけり苔莚あをねか峯の雪のむら消
内 0382 のこりなく花ちりにけり苔むしろあをねか峯の雪のむらきえ

谷 0394 深山紅葉　経信
内 0385 〃〃紅葉　経信
谷 0394 山もりよをのゝ音たかくひゝくなり峯のもみちはよきてきらせよ
内 0385 山もりよをのをとたかくひゝく也峯の紅葉よゝきてきらせよ

谷 0395 深山落葉　俊頼
内 0395 日くるれとあふ人もなしまさきちるみねは嵐のをとはかりして

谷 0396 深山霰　匡房
内 0396 はしたかのしらふに色やまかふらんとかへる山にあられふるらし

谷 0397 花色春深　俊頼
内 0397 かそふれは春も木すゑに成にけり花とゝもにやちりまかふらん

谷 0398 雪与歳深　同
内 0398

※歌題の下
きらせよ―きかせよ【宮】

谷内 0398 山さとはつもれる雪のふかさにやくれゆくとしの程をしるらん

谷内 0399 深夜郭公　經信卿

谷内 0399 さ夜ふけてくらふの山の時鳥ゆくゑも知らす鳴わたる也

谷内 0400 夜深見月　仲実

谷内 0400 かけきよき夜わたる月のさへゆくをまたそれならておれおしむらん　おれ―たれ【宮】【三】

谷内 0401 夜深聞鴈　匡房

谷内 0401 夜をさむみいせのはまをき分ゆけはころもかりかねきこゆなる哉

谷内 0402 夜深聞鹿　俊頼

谷内 0402 木の葉ちる峯のあらしに夢さめて涙もよほす鹿の聲哉

谷内 0403 惜春夜深　俊綱

谷内 0403 つきけるこよひはかりの春のよのあり明の月もかたふきにけり　つきける―つきにける【宮】

谷内 0404 同　〈橘〉為仲〈前陸奥守〉

谷内 0404 おしむよの明やしぬらんとおもふよりかねて恋しき春にもあるかな

谷内 0405 草花露深　俊頼

谷 0405 あたしの丶萩のすゑこそ秋かせにこほる丶露やたま川の水

谷 0406 山路露深
内 0386 山路露深 〈源〉師俊卿〈中納言〉師俊

谷 0406 夕露にあさのさ衣そほちつ丶冬木こりをくをの丶山人
内 0386 良 夕きりにあさの衣てそほちつ丶冬木こりつむをの丶山人

※歌題の下

谷 底 ［底］

谷 0407 松老澗底
内 0387 松老澗底 白川院御製 白河院御製

谷 0407 よろつ世の秋をも知らてすきにたるはかへぬ澗のいはね松かけ
内 0387 後 万代のときをもしらて過きたる葉かへぬたにの岩ね松かな

※歌題の下

谷 0408 澗底花
内 0388 澗底花 俊頼 俊頼

谷 0408 こもち山たにふところにおひたちてき丶のはく丶む花をこそ見れ
内 0388 こもち山谷ふところにおひたちてき丶のはく丶む花をこそみれ

谷 0409 澗底月
内 0389 澗底月 同人 同人

谷 0409 てる月の旅ねのとこやしもとゆふかつらき山の谷かけの水
内 0389 てる月の旅ねの床やしもといふかつらき山の谷河の水

谷 0410 風底荻聲
内 0390 風底荻聲 同人 同人

谷 0410 おきの葉の軒のあまりに音信て人の心をかきみたるらむ
内 0390 荻の葉の軒のあまりに音信て人の心をかきみたすらん

谷 流 ［流］

谷 0411 月浮流水 〈源〉隆俊卿〈中納言〉
内 0391 月浮流水 隆俊
内 0391 打聞
谷 0411 岩間行水にしからみかけぬともあやしく月のうきてなかれぬ
内 0391 岩まゆく水にしからみかけねともあやしく月のうきてなかれぬ

※歌題の下

谷 0412 落葉滿流〈如本〉 家隆
内 0392 落葉滿流 家經
谷 0412 たかせ舟しふくはかりに紅葉ゝのうきてなかるゝ大井川かな
内 0392 たかせ船しふくはかりに紅葉はのなかれてくたる大井河哉

家経【宮】

内 谷 [不流]
不流

谷 0413 氷水不流 〈藤〉正家〈式部太輔〉
内 0393 水氷不流 正家

※歌題の下

谷 0413 良
内 0393 むすひあけし水は氷てなかれねと影みることはをとらさりけり
谷 0413 むすひあけし水はこほりてなかれねとかけみることはおとらさりけり
内 0393

内 谷 [洲]
[洲]

谷 0414 霜靏立洲
内 0394 霜鶴立洲 無
内 0394 無名

河原院歌合

谷 0414 あしたつのたてるなきさの河波は千代をかそへておるにやあるらん
内 0394 あしたつのたてる渚の河浪はちよをかそへておるにや有らん

※歌題の下
たてる—たてたる【宮】

谷 0415 同 恵慶法師〈号播磨講師〉
内 0395 同 恵京
谷 0415 影見えて汀にたてる靏はみなうへしたちかをおもふなるへし
内 0395 かけみえて汀にたてる波はみなむへし□よを思なるへし

京—慶歟【傍】

内 谷 [岸]
岸

谷 0416 池岸柳 雅兼卿
内 0396 池岸柳 雅兼
内 0396 金
谷 0416 かせふけは波のあやをる池水にいとひきそふる岸の青柳
内 0396 風ふけは浪のあやをる池水にいとひきそふる岸のあをやき

※歌題の下

谷 0417 池岸藤花 仲正
内 0417 松風にみつのしら玉ふきかけてひかりをそふる池の藤なみ

谷 0418 岸菊久匂 為政
内 0397 岸菊久匂 為政
谷 0418 みとりなる松の千とせをあらそふは汀にさゆるしら菊のはな
内 0397 みとりなる松のちとせをあらそへは汀にさける白菊の花

谷 ［林］
内 林

谷 0419 林近聞鶯聲 無
内 0398 林近聞鶯聲 無名〈可尋〉
谷 0419 呉竹のしけきやとにはうくひすの聲をひまなくきくそ嬉しき
内 0398 くれ竹のしけき宿には鶯の聲をひまなくきくそうれしき

谷 0420 月滿林間 盛房
内 0399 月漏林際 藤盛房
谷 0420 わか宿はをのゝくるすのこくれにてもりくる月のをほろなるかな
内 0399 我やとはをのゝふるえのこくれにてもりくる月のおほろなるかな

漏―満【三】

谷 0421 一葉散林 範永
内 0400 一葉散林 範永
谷 0421 紅葉せむ木〃の梢はおほかれとひと葉も散はおしきなりけり
内 0400 紅葉せむまゝの梢はおほかれと一葉もちるはおしき成けり

谷 0422 同 俊綱
内 0421 山かつのたはらのさとのおくるすの秋をしりてもちるひとはかな
谷 0422 俊綱
内 0401 やまかつのたはらの里のをくるすのかきをしりてもちる一葉哉

谷 0423 同 經衡
内 0402 經衡
谷 0423 一葉たにちるはおしきにもみちするもりの木すゑに風のふくらん
内 0402 一葉たにちるはおしきをもみちするもりの梢に風のふくらん

谷 0424 義孝〈前伊勢守〉
内 0403 良暹
谷 0424 已上五首俊綱會
内 0404 良暹
谷 0424 はゝそ原いろつく枝そあやにくに一葉なれともまつはちりける
内 0404 柞原色つく枝そあやにくに一葉なれともまつはちりける

谷 0425 良暹
内 0403 義孝〈伊勢前司〉
谷 0425 あたち野やまゆみも色やつきぬらんなみきの里は梢よりちる
内 0403 あたち堅やまゆみも色やつきぬらんなみきのみやは梢よりちる

谷 [叢]
内 叢

谷 0426 虫叢中鳴
内 0405 叢中夜虫
谷 0426 能宣
内 0405 能宣
谷 0426 君かきくまかきの草のすゝむしは千世のあきく〳〵聲なたへせそ
内 0405 君かきくまかきの草の鈴虫はちよの秋にも聲なたえせそ

谷 0427 虫鳴叢
内 0406 虫鳴叢
谷 0427 無
内 0406 無名
谷 0427 河原院會
内 0406 秋のゝ草葉の露にそほちつゝなくむしの音にわれもおとらす
谷 0427 秋のゝ草葉の露にそほちつゝ鳴虫のねに我もをとらす
内 0406

たはらのさと—たわら里【宮】

題ナシ【宮】

良暹【宮】

※歌のあと。

※【宮】は歌のみ順逆。解説41・42ページ参照。

義孝〈前伊勢—〉【宮】

たへ—本ノマヽ【傍】

※歌題の下

谷 内 村［村］

谷 0428 遠村早苗
内 0407 遠村早苗 顕季
谷 0428 さと遠み山田のさなへひきつれていそきて見ゆるたこのけしきか
内 0407 里とをみ山田のさなへひきつれていそきてみゆるたこのけしきか

谷 0429 遠村煙
内 0408 遠村煙 頼成〈淡路守〉
谷 0429 丁聞
内 0408 藤頼成
谷 0429 をちこちのけふりはかりも見ゆるかななき人すめるわたりなるらん
内 0408 をちこちの煙はかりも見ゆる哉なに人すめるわたりなるらん

〈藤〉頼成〈淡路守〉【宮】
【三】
※歌題の下

谷 内 路［路〈徑〉］
路 徑

谷 0430 行路落花
内 0409 行路落花 通俊卿
谷 0430 ちりまかふ花ゆへけふはくれぬれはあさたつみちもかひなかりけり
内 0409 ちりまよふ花ゆへけふはくれぬれは朝たつ道もかひなかりけり

谷 0431 行路郭公
内 0411 行路郭公 仁和寺左府
谷 0431 たとりゆくしかの山路をうれしくもわれにかたらふほとゝきすかな
内 0411 たとりゆくしかの山ちをうれしくも我にかたらふ時鳥かな

谷 0432 行路蛍火
内 0410 行路蛍火 殿下
谷 0432 かゝり火にまかふほたるをしるへにてこのあけくれに舟てすらしも
内 0410 かゝり火にまかふほたるをしるへにて 関白

すらしも―すゝしも【宮】

谷 0433 行路秋花
内 0412 行路秋花 公実卿
谷 0433 しほりして行人もかな秋はきの花のみたれに道も知られす
内 0412 しほりしてゆく人も哉秋萩の花のみたれに道もしられす 三条大納言

谷 0434 行路初雪 大相國
内 0434 よな〳〵の旅ねのとこにかせさえて初雪ふれりさやの中山

ふれり—ふれる【宮】

谷 0435 山路落花 成元
内 0413 山路□花 橘成元
谷 0435 後桜はなみち見えぬまてちりにけりいかゝはすへき志賀の山越
内 0413 さくら花みち見えぬまてなりにけりいかゝはすへきしかの山こえ

※歌題の下

谷 0436 山路郭公 殿下
内 0415 山路郭公 関白
谷 0436 たつねいる山路をすてゝ時鳥聲するかたへゆくこゝろかな
内 0415 たつね入山ちをすてゝ時鳥聲するかたへゆく心哉

谷 0437 樵路郭公 大相國
内 0416 山路時鳥 大政大臣
谷 0437 みやま木をたてゝきゝくる時鳥こしやすむとや人はみつらむ
内 0416 太山木をたてそせきつる時鳥こしやすむとや人はみるらん

谷 0438 同 顕輔卿
内 0417 顕季
谷 0438 あさゆふのかせをしまたていかにして鳴わたるらん山ほとゝきす
内 0417 あさゆふの風をもまたすいかにして鳴わたるらん山ほとゝきす

谷 0439 海路時鳥 無
内 0418 海路郭公 無名
谷 0439 たかさこの松になきけりほとゝきすこのみなとにそ舟はとゝめむ
内 0418 高砂の松になきけり時鳥この湊にを舟はとゝめむ

時鳥—郭公【宮】

谷 0440 関聞郭公 俊頼
内 0419 時しもあれゆき逢坂の杉かえに山時鳥せきかたむなり
谷 0440 時しまれなきあふ坂の松かえに山時鳥せきかたむなり
内 0419

時鳥—郭公【宮】

谷 0441 関路千鳥 〈源〉兼昌〈大宮少進〉
内 0420 関路千鳥 兼昌入道
金
あはち嶋かよふちとりのなく聲にいくよねさめぬすまの関もり
谷 0442 山路暁月 範永
内 0420 山路暁月 範永
あはちしまかよふ千鳥のなく聲にいく夜ねさめぬ須磨の関守

※歌題の下

谷 0442 山路暁月 範永
内 0414 山路暁月 範永
在明の月もしみつにやとりけりこよひは越しあふ坂のせき
谷 0442 山路暁月 範永
内 0414 山路暁月 範永
あり明の月もし水にやとりけりこよひはこえし相坂の関

谷 0443 野徑躑躅 行家卿
内 0421 野徑躑躅 行窓
こゝろせは堅へのつゝしにとゝめをきてわか身はかりや宿へ帰らん
谷 0443 野徑躑躅 行家卿
内 0421 野徑躑躅 行窓
心をは堅へのつゝしにとゝめをきて吾身斗や宿へかへらん

谷 0444 堅徑月 殿下
内 0422 堅徑月 関白
八重むくらしけみのをのゝふちはやとるもおしくみゆる月かな
谷 0444 堅徑月 殿下
内 0422 堅徑月 関白
やへむくらしけみのをのゝふる道にやとりもおしくみゆる月哉

せは―をは【宮】

徑―住【三】
ふちは―ふるみちに【宮】

谷 0445 所ゝ尋花 白河院御製
内 0423 處〃尋花 白河院御製
春くれは花のにほひにさそはれていたらぬさとのなかりつるかな
谷 0445 所ゝ尋花 白河院御製
内 0423 處〃尋花 白河院御製
春くれは花の匂にさそはれていたらぬさとのなかりけるかな

谷 0446 同 六條右府
内 0424 同 六條右大臣
よしの山たにかくれなるはなまてもけふはたつねぬ所あらしな
谷 0446 同 六條右府
内 0424 同 六條右大臣
吉堅山谷かくれなる花ならてけふはたつねぬところあらしな

谷 0447 同 匡房
内 0425 同 匡房

「處〈所々〉」
處〃

内 0425 已上同座
谷 0447 桜さくよものしら雲一かたにあしけの駒のあともさためす
内 0425 さくらさくよもの白雲一かたにあしけの駒の宿もさためす

谷 0448 卯花處々　顕季
内 0426 卯花處〃　顕季
谷 0448 河の邊にむら〳〵さける卯花も瀬〻の白波たつかとそ見る
内 0426 かはらへにむら〳〵さける卯花はせく白波のたつかとそみる

谷 0449 寒蘆所々　邦通〈前上総守〉
内 0427 寒蘆處〃　邦通〈上総前司〉
谷 0449 上哥なし
内 0427 風さむみ霜かれわたるあしのはのたえ〳〵みゆる難波かたかな

谷 [庭]
内 庭

谷 0450 庭移秋花　京極大殿
内 0428 庭移秋花　京極前大政大臣
谷 0450 後わかやとに秋の野へをうつせりとはなみにゆかむ人につけはや
内 0428 我宿に秋の堅へをはうつせりと花見にゆかん人に見せはや

谷 0451 野花移庭　範永
内 0429 野花移庭　範永
谷 0451 こゝろありて露やをく覧野へよりもにほひまされる秋萩のはな
内 0429 心ありて露やをくらんつねよりも匂まされる秋萩の花

谷 [砌]
内 砌

谷 0430 梅花薫砌　顕輔
内

※歌のあと

邦―郡【宮】
※歌題の下一行空白【宮】

※歌題の下をーをは【宮】

谷 内 0430 あさからぬ匂ひのみかは梅花しつえは宿のかさし也けり

谷 内 0452 盧橘薫砌 顕季
谷 内 0431 盧橘薫砌 顕季
谷 内 0452 たち花のこすのまとをしにほふかを誰かふる袖と思ひける哉
谷 内 0431 たち花のこすのまとをし匂かをたかふる袖と思ひけるかな

谷 内 0453 砌下栽竹 新院御製

栽―載【宮】

谷 内 0453 軒ちかく植そたてたるかは竹はおなしなかれのすめはなりけり

谷 内 [隣]
隣

谷 内 0454 卯花隔隣 俊頼
谷 内 0432 卯花隔隣 俊頼
谷 内 0454 卯花のかきねはかきをもろともにかよふ心はへたてなけれと
谷 内 0432 卯花のかきねはかりそもろ人もかよふ心はへたてさりけり

はかきを―はかりそ【宮】

谷 内 0455 隣家盧橘 新院御製
谷 内 0455 かきこしにこち吹かせのにほひにて花たちはなをよそに知る哉

谷 内 0433 隣家盧橘 源師光
谷 内 0433 我宿にたつぬはかりそたち花のにほひはかきもへたてさりけり

谷 内 [山家]
山家

谷 内 0456 山家梅花 成助

谷 0456 梅のはな垣ねに匂ふ山里はゆきかふ人の心をそ見る
内

谷 0457 山家更衣 同
内 0434 山家更衣 成助
谷 0457 卯花の垣ねを見てや山かつのあさの衣はうすくなすらむ
内 0434 卯花のかきねをみてや山かつのあさの衣をうすくなすらん

谷 0458 山家卯花 〈藤〉通宗 〈若狭守〉
内 0435 〃〃卯花 通宗
谷 0458 跡たえてくる人もなき山さとにわれのみ見よとさける卯花
内 0435 あとたえてとふ人もなき山里に我のみみよとさける卯花

谷 0459 山家水鶏 輔弘
内 0436 〃〃水鶏 大中臣輔照
谷 0459 後 やへしけるむくらの宿のいふせさにさゝすや何をたゝく水鶏そ
内 0436 やへしけるむくらの門のいふせさにさゝすやなにをたゝく水鶏そ

※歌題の下

谷 0460 山家秋風 皇大后宮越後
内 0437 〃〃秋風 皇后宮越前
内 0437 同 山さとの賤の松垣ひまをあらみいたくなふきそ木からしのかせ
谷 0460 山かつのしつの松かきひまをあらみいたくなふきそ木枯の風
内 0437

※歌題の下

谷 0461 山家秋暁 頼家
内 0438 〃〃秋晩 頼家
谷 0461 くれゆけはあさちかはらの虫の音もおのへのしかも聲たてつなり
内 0438 暮ゆけはあさちか原のむしのねもおのへの鹿も聲たてつなり

暁―晩【宮】

谷 0462 山家時雨 永胤法師
内 0439 〃〃時雨 永胤
内 0439 同

※歌題の下

谷 0462 神無月ふかくなりゆく木すゑより時雨てわたるみ山へのさと
内 0439 神無月ふかくなりゆく梢より時雨てわたる深山へのさと

跡―後【三】

谷 0463 山家冬夜 俊頼
内 0440 〃冬夜 俊頼
谷 0463 ひとりぬるやとはふかきにうつもれて岩のかけ道跡たえにけり
内 0440 ひとりぬるやとはふゝきにうつもれて岩のかけ道跡たえにけり

谷 0464 山家霰 俊綱
内 0441 〃霰 俊綱
谷 0464 後
内 0441 とふ人もなきあしふきのわかやとはふるあられさへをとせさりけり
谷 0464 とふ人もなきあしふきの吾宿はふるあられさへをとせさりけり
内 0441

※歌題の下

谷 0465 山家雪 國房
内 0442 〃雪 藤国房
谷 0465 さひしさをいかにせよとてをかへなるならのはしたりみゆきふる覧
内 0442 さひしさをいかにせよとてをかへなるならのはしたり雪のふるらん

谷 0466 山家待春 良暹
内 0443 〃待春 良暹
谷 0466 つく〳〵と春をこそまて雪のうへにあらしふりしくしからきのさと
内 0443 つれ〳〵に

谷 0467 山家客来 成助
内 0444 〃客来 成助
谷 0467 時雨する山ちふりはへくる人は紅葉にあかぬこゝろなるらん
内 0444 時雨する山ちはかりはくる人も紅葉にあかぬ心なるらん

谷 0468 山家旅宿 經信
内 0445 〃旅宿 經信
谷 0468 後
内 0445 旅ねするやとは深山にとちられてまさきのかつらくる人もなし
谷 0468 たひねするやとは深山にとちられて薜のかつらくる人もなし
内 0445

※歌題の下

ふ＊かき—ふイ【傍】　ふかき—ふゝき【宮】【三】

谷 [野亭]
内 野亭

谷 0469 夜宿野亭 教覚法師
内 0446 夜宿野亭 叡覚
谷 0469 後
内 0446 こよひこそしかのねちかくきこゆなれやかて垣ねは秋のゝなれは
谷 0446 今夜こそ鹿のねちかくきこゆなれやかてかきねは烄のゝなれは

谷 0470 野亭聞鹿 俊頼
内 0447 野亭聞鹿 俊頼
谷 0470 さをしかの鳴ねは野へにきこゆれはとこの物にそありける
内 0447 さをしかのなくねは堅へにきこゆれと涙はとこの物にそありける

谷 [田家]
内 田家

谷 0471 田家秋興 匡房
内 0448 田家秋興 匡房
谷 0471 秋くれはあさけのかせのてをさむみ山田のひこをまかせてそきく
内 0448 烄くれは朝けの風の手をさむみ山田のひたにまかせてそきく

谷 0472 田家穐風 頼家
内 0449 〃〃烄風 頼家
谷 0472 後
内 0449 やとちかき山田のひたにてもかけてふく秋かせにまかせてそ見し
谷 0473 山ちかきやま田のひたにてもかけて吹秋風にまかせてそきく

谷 0473 田家秋雨 大相國
内 0450 〃〃秋雨 大政大臣
谷 0473 かりしほの門田のいねのくつるまてあましまちをる心もとなき
内 0450 かりしほの門田のいねのくつるまてあまゝ待をる心もとなさ

谷 0474 田家老翁
内 0451 〃〃老翁 〈藤〉基長〈中納言〉
谷 0474 金
内 0451 ますらおは山田のいほりおひにけり今いくあきにあはむ
谷 0474 ますらおは山田のいほに老にけりいまいく秋にあはんとすらん
内 0451

※歌題の下
垣ね—きかね【宮】

きこゆれは—きこゆれと涙は【宮】

ひ*こ—た【傍】　ひこ—ひた【三】

※歌題の下

あまし—あまゝ【宮】なき—なさ【宮】

※歌題の下
いほり—いほに【宮】
むー むとすらむ【宮】